

二 国際連盟との諸問題

7 昭和11年1月1日

在ジュネーブ横山(正幸)国際会議事務局長代理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

委任統治問題に関し非連盟国たる受任国と連

盟との関係に関する連盟委任統治部長との応

答要領について

ジュネーブ 1月1日後発

本 省 1月2日前着

第一號(極秘)

貴電第一二五號ニ關シ

聯盟職員全部目下休暇中ナルカ三十一日午後漸ク委任統治部長ト面會シ御問合セノ三點ニ關シ順次其ノ意見ヲ叩キタルニ應答要領左ノ通

一、委任統治部ニテ非聯盟國タル受任國ト聯盟トノ關係ヲ研究セルニ先ツ三種ノ場合ヲ豫見シ得

一ハ統治條項ノ變更修正

二ハ同條項ノ解釋

報審査ヲ爲ス以上當該受任國カ假令非聯盟國ナルニセヨ其ノ代表者ヲ招請スルハ公正ニシテ儀禮上モ當然ナラント常識的ニ判斷シタル次第ナリ即チ委任統治部トシテハ全ク事務的ニ考ヘテ事務總長ノ高裁ヲ仰キタルニ過キス法律の根據等ヲ問題ニシタルコト無シ從テ強ヒテ之ヲ求メントセハ法律部ニ移牒シ研究セシムルノ外ナシ

三、⁽²⁾本件ノ出發點カ元來右ノ通り年報審査ニ付當該受任國代表者ノ出席ヲ求ムト云フニアリタル故委任統治部トシテハ右代表者カ委任統治制度ノ全般的問題ニ關シ發言スル場合等ヲ考ヘタルコトナシ尤モ年報ニ對スル説明以外ノ一般の問題ニ言及セリトテ理事會カ其ノ發言ヲ停止スル如キコトナキハ勿論ナルヲ以テ理事會ハ之ニ對シ回答シ若ハ之ニ基キ決定スルノ義務ナキコトモ當然ナラン

三、委任統治部ハ本件ヲ全ク事務的ニ客觀的ニ取扱ヒタル爲法律の根據等ニ深く留意セサリシト同様ニ政治的效果等モ研究シ居ラス但シ自分限りノ印(象)ニ依レハ若シ自分ノ結論カ日本招請ヲ不必要又ハ不可能トスルニアリシナラハ事務總長ハ必ス之ヲ喜ハス何トカシテ必要且ツ可能ナラシムヘク立論スル様再考ヲ命シタルナラント思ハル

三八統治年報ノ審査

ナリ前二者ハ關係統治國ノ同意無クハ理事會等ニテ何等決定シ難キコト明カナルモ實際上斯ル問題ハ差當り起リ得ス之ニ反シ後者ハ次同理事會ニ際シ現實ノ問題トナルヘキカ此ノ場合ニモ當該國代表者ノ列席ヲ求ムルコトカ當然ナラント考ヘラレタリ年報審査ニ當リ理事會カ當該國ノ説明ヲ求メ得ルト同時ニ當該國カ理事會ニ説明ヲ爲シ得ルコト理論上當然ナレハナリ唯實際上ハ理事會カ當該國代表者ニ對シ突然質問ヲ爲ス如キハ絶無ニテ若シ其ノ必要アル場合ニハ豫メ關係者間ニ打合セテ遂ケ置クコト御承知ノ通ナリ從來委任統治年報審査ニ付テハ白耳義、新西蘭、南阿等理事會員ニアラサル聯盟國ノ代表者カ其ノ都度理事會ニ出席セルモ事實説明應答ヲ行ヒタルコトナシ尙是等ノ代表者ノ出席ハ規約第四條第五項ノ規定ニ基ケルモ非聯盟國タル日本ノ場合ニハ右規定ヲ適用シ得ス又之ヲ準用(ス)ト云フコトモ出來ス唯理事會カ年

事務總長ハ日本政府ノ内意ヲ非公式ニ承知シ度キ希望ナリシト同時ニ理事會ニテ問題カ具體化スル以前ニ早ク日本側ニ之ヲ豫告シ攻究ノ餘暇ヲ與ヘントノ意嚮ナリシコトモ明白ナリ云々

尙同部長ハ一月六日頃歸壽ノ筈ナル事務總長トモ相談ノ上更ニ參考トナルヘキ事項アラハ追報スヘシト約束セリ在歐各大使(土ヲ除ク)、波蘭ヘ暗送セリ

8 昭和11年1月9日

在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

シリアとの通商に関する日仏協定締結に際しても委任統治地域での非連盟国通商均等待遇に關する我が方根本主張を明示すべき旨具申

付記 通商局作成、「昭和十一年度執務報告」より抜

粹

右協定骨子

パリ 1月9日後発

本省 1月10日前着

第一一號

往電第八號ニ關シ

「シリヤ」等委任統治地域ニ於テ本邦商品ノ受クヘキ待遇ニ關スル根本主義ノ問題ニ關シ日佛間ニ公文ヲ往復シ別ニ實際協定ヲ結ヒテ「シリヤ」貿易ノ實際的解決ヲ遂クル考ニテ從テ最惠國待遇問題ハ右實際協定中ニハ別ニ之ヲ明記シ居ラサリシ次第ナルカ客年十月八日附通一機密第一六三號御訓令ニ依リ今次ノ協定案文ニ最惠國條款ヲ挿入シタル結果右協定ハ著シク根本協定タルノ性質ヲ帶ヒ來リ右協定ニ相當ノ形式ヲ與フルニ於テハ少クトモ「シリヤ」ニ於ケル邦品待遇ニ關スル主義上ノ問題モ或程度迄ハ解決シタルモノト言フコトヲ得ヘシ

乍併右協定ハ委任統治制度全般ニ對スル我方從來ノ根本主張ニハ何等言及シ居ラサルニ付此ノ點ハ聯盟委任統治委員會等ニ於テ我方ノ主張貫徹方引續キ努力スルト共ニ佛國側ニ背シテハ今次ノ協定署名ノ際別ニ公文ヲ交換シ右公文中我方ハ

「委任統治地域ニ於テ本邦商品ノ受クヘキ最惠國待遇ニ關スル我方從來ノ主張(客年六月二十四日附機密第五六五號往信附屬甲號及乙號)ヲ述ヘ

稅率ヲ賦課スル意嚮ヲ有シタル處斯クテハ邦商ガ苦心ノ未獲得セル新市場ヲ喪失スル惧アリタルヲ以テ佛國側ノ要望ヲ諒トシ出來得ル限り日「シ」間片貿易ヲ緩和スル爲「シリヤ」物產ノ購入方ニ就キ佛國側ト商議ノ結果本年七月二十九日日佛兩國政府間ニ公文ヲ交換ノ上協定成立シ八月一日ヨリ實施セラルルコトナリタルガ其ノ骨子トスル所左ノ如シ

(イ)「日本綿糸布歐阿近東輸出組合」及「日本絹人絹糸布輸出組合聯合會」ハ「シリヤ」向綿糸布並ニ絹人絹布統制ノ爲輸出許可書ヲ發給ス

右輸出許可書ハ原產地證明書ニ代ハルモノトス

(ロ)右輸出許可書發給ニ當リC、I、F、從價三分ノ手數料ヲ徵收シ、其ノ全收入ヲ以テ「シリヤ」產品買付獎勵資金ヲ設置ス、右手數料ハ「組合」又ハ「聯合會」ノ代表者ニ依リ亞歷山ニ於テモ之ヲ徵收シ得(註、目下ノ處在亞帝國領事ガ「組合」ノ委囑ニ依リ綿糸布ノミニ對シテ本件手數料ヲ徵收シ居レリ)

(ハ)右特別資金ハ「シリヤ」品輸入者ニ對スル補償金ニ充當セラル

ニ然レトモ「シリヤ」トノ通商促進ノ趣旨ヨリ暫ク主義上ノ主張ヲ離レ本日ノ實際的協定ニ署名スルモノナルコトヲ明カニシ

ニ但シ本協定ノ成立ハ我方主義上ノ主張ヲ捨ツルモノニアラサル次第ヲ留保スルコト從來ノ御訓令ニ鑑ミ必要カト思考スル處(尤モ右ニ對シ佛側ハ其ノ從來ノ法律論ヲ留保シ來ルヘシ)右ハ今次協定ノ形式ニモ關聯シ來ル問題ナルニ付其ノ邊全般的對策再應御同訓相仰度シ

編注 『日本外交文書』昭和期II第二部第四卷第336文書。

(付記)

日本「シリヤ」間通商ニ關スル日佛協定

「シリヤ」ニ於テハ國際聯盟加入國及「シリヤ」ト特別協定有ル國ノ商品ニ對シテハ最低稅率(最惠國待遇)ヲ非聯盟國品ニ對シテハ最高稅率(最低稅率ノ約二倍)ヲ適用スルコトナリ居ル處佛國政府ハ客年三月二十七日日本邦ノ聯盟脫退完了ヲ機トシ本邦ガ「シリヤ」物產ヲ買付ケ「シリヤ」ニ不利ナル片貿易ヲ調整セザルニ於テハ本邦品ニ最高

右補償金ハ「組合」、「聯合會」及輸入商各代表者ヨリ成ル委員會ノ議ヲ經タル上「シリヤ」品輸入者ニ配分セラル

(ニ)日本政府ハ「組合」及「聯合會」ニ依ル前記諸規定ヲ監督スベシ

(ホ)佛國政府ハ前記規定ノ完全ナル運用ノ爲「シリヤ」向日本商品ニ對シ最惠國待遇ヲ賦與ス

(ヘ)本規定ハ有効期間ヲ一年トシ各期間滿了ノ六月前ニ廢止通告ナキ場合ニハ暗黙ノ更新ニ依リ一年宛延長セラル尙我方ニ於テハ「シリヤ」產品ノ購付ヲ容易ナラシメムカ爲七月二十八日關稅定率法第三條ニ依リ勅令ヲ以テ「シリヤ」商品ニ對シ一方的ニ最惠國待遇ヲ許與スルコトニ決定シ、其ノ旨同ジク七月二十九日附ヲ以テ佛國側ヘ通告セリ

9

昭和11年1月11日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

委任統治問題に關シ連盟理事會への我が方出席問題および連盟理事會報告案・決議案等につき連盟委任統治部長内話について

別電 一月十一日発在ジュネーブ横山国際会議事務局

長代理兼総領事より広田外務大臣宛第三号

右報告案および決議案における我が方関係部分

ジュネーブ 1月11日後発

本 省 1月12日後着

第二號(極秘)

往電第一號ニ關シ

十一日委任統治部長ノ内話要領左ノ通

「事務總長一昨日歸任後早速相談セルニ同總長ノ意見ハ其ノ後一層明確ニ「本件ハ専ラ事務局限りニテ事務的ニ取扱フヘキ手續問題ニシテ理事會ニ附議ノ要無シ」ト云フニ傾キタルト又英、佛、伊等モ右ニ何等ノ異存無キコト非公式ニ判明セル爲同總長ハ不日日本外務大臣宛電報發送ノコトニ決セリ

ニ右電報ノ要領ハ「一月二十日開催ノ理事會ニ於テ日本政府ノ南洋委任統治年報ニ關スル常設委任統治委員會ノ審査報告ヲ審査スヘシ就テハ日本政府ニ於テ右審査ニ際シ其ノ代表者ヲ理事會ニ出席セシムルコトヲ希望セラルル場合ニハ右代表者ノ氏名通報ヲ請フ」ト云フニアリテ特

ニ「招請」ト云フ如キ言葉ヲ用ヒサルコトトシ之カ諾否ニ關スル日本政府ノ立場ヲ容易ナラシムル様ニ苦心セリ

「過日御話ノ諸點モ右ニテ一層明瞭トナルヘク要スル本件手續ハ全ク事務的見地ヨリ受任國ニ對シ當然ノ義務トシテ事務總長ノ責任ニテ之ヲ決行スル次第ニ付假令今回日本政府カ何カノ都合ニテ代表ヲ出サレストモ今後毎回同様ノ手續ヲ繰返スコトトナルヘシト思ハル

尙同部長ハ本官ノ求ニ應シ理事會報告者羅馬尼代表トモ打合せノ上本件ニ關スル理事會報告案及決議案ヲ内示シ其ノ内本邦ニ關係アル部分ノ寫ヲ手交シ吳レタルカ其ノ大要別電第三號ノ通ナリ

在歐各大使、波蘭へ暗送セリ

(別電)

ジュネーブ 1月11日後発

本 省 1月12日後着

第三號(極秘)

「報告案

Dans la partie de son rapport intitulée "questions

spéciales", la Commission a inséré, sous le titre "Le Japon et l'égalité économique", le passage suivant :

"La Commission des Mandats a entendu une déclaration du représentant accrédité du Gouvernement Impérial du Japon relative à l'égalité économique. Le texte de cette déclaration est annexé au procès-verbal de la session de la Commission (annexe, C.P.M. n 2d, ^(2nd #) page)

"Étant donné la nature et la portée de cette ⁽⁷⁻⁷⁾ déclaration, la Commission n'a pas estimé ni ^(partenait #) lui appartenait d'en délibérer en avoir été, requise par le Conseil."

La thèse du Gouvernement Japonais soulève une question de principe importante dont l'examen s'avèrera peut-être. Le Conseil pourrait, pour le moment, se borner à en prendre acte, tous en se réservant la faculté à l'étude.

Enfin, je crois de mon devoir de constater, au vue des délibérations de la Commission, que le Japon - dont

la qualité de membre de la Société a pris fin le 27 mars

1935 - a considéré à juste titre, qu'il demeurerait soumis aux obligation du Mandat qu'il exerce au nom de la Société, selon les principes posés par l'article 22 du Pacte.

「決議案

Le Conseil prend acte de la déclaration du représentant accrédité du Gouvernement Impérial du Japon près de la Commission relative à l'égalité économique.

Il se réserve de mettre éventuellement à l'étude de la thèse développée dans cette déclaration.

右ノ外委任統治委員會ノ observations 諸願事件等ニ關スル部分ハ從來ノ決議ト同趣旨ナリ

本電ノ同様暗送ナリ



10 昭和11年1月13日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

委任統治問題に關シ連盟理事會への我が方代

表者派遣の有無確認方連盟委任統治部長より
要請について

別電 一月十三日発在ジュネーブ横山国際会議事務局

長代理兼総領事より広田外務大臣宛第五号

右確認のための連盟事務総長より我が方外務大

臣宛電報

ジュネーブ 1月13日後発

本 省 1月14日前着

第四號(極秘)

往電第二號ニ關シ

十三日朝委任統治部長ヨリ貴大臣宛電報ハ矢張り慣行通り
本官經由トスルコト安全ト思考ストテ轉達方依頼アリ別電
第五號ニテ電報ス

尙其ノ際極秘當方ノ含ミ迄ニトテ左ノ通り語レリ

「英、佛、伊三國理事ニハ本件ヲ内示同意ヲ得タルモ蘇聯
ニ對シテハ態ト内報ヲ避ケタリ

理由ハ同政府ハ聯盟加入以來常ニ植民地問題ニハ無關心
ノ態度ヲ持シ委任統治制度ニ主義上反對ノ立場ニアル故
之ニ相談スルハ無意味ナルノミナラス問題ヲ政治化セラ

ルル俱モナキニアラスト思ハルルコトニアリ此ノ種ノ問
題ニ付蘇聯丈ケハ他ノ常任理事國ト同様ニ取扱フコトヲ
得ス常ニ苦心ヲ要ス

ニ、從來南阿聯邦、新西蘭等ハ何人カラ出席セシムル場合ニ
ハ其ノ氏名ヲ通報シ又然ラサル場合ニハ「今回ハ都合ニ
依リ代表者ヲ派遣セス」ト簡單ニ回答シ來ルヲ常トス日
本政府ニ於テモ此ノ慣例ニ依ラレテ可ナルヘシ次回以後
モ同様トス斯クセハ事務局トシテハ日本政府ニ對シ何等
御迷惑ヲ掛ケス而モ義務丈ケハ充分盡シ得ル次第ト思考
ス

本電別電ト共ニ冒頭往電通り暗送セリ

(別電)

ジュネーブ 1月13日後発

本 省 1月14日前着

第五號

I have honour inform you that following question
appears on agenda of next session of Council of League
of Nations which will open at Geneva on January twen-

tieth. Permanent Mandates Commission report on work
of twenty eighth session. Should Japanese Government
desire to send a representative to sit at council table
when this question comes up for discussion I should be
grateful if you would inform me in due course of name
of representative appointed for this purpose.

Avenol.

11 昭和11年1月18日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

委任統治地域での非連盟国通商均等待遇問題
審議を回避した連盟理事会へは我が方は参加
しない旨連盟事務総長宛回答文手交について

ジュネーブ 1月18日後発

本 省 1月19日前着

第八號(極秘)

貴電第二號ニ關シ(委任統治問題ニ付聯盟理事會ニ帝國代
表者招請ノ件)

十七日委任統治部長ニ面會シ同電ノ(一)ニ基ク簡單ナル事務

總長宛回答文ヲ手交セル上同電(一)ノ點ヲ忌憚ナク説明セル
處同部長ノ應答要領左ノ通

今回日本政府ガ代表者ヲ出サザルハ自分トシテハ残念ナル
ガ御話ノ通り經濟均等待遇ノ如キ重要案ノ審議ナキ場合ニ
態々出席ノ意嚮ナシトセラルル事情ハ御尤モナリ右ノ次第
ハ事務總長ニモ傳ヘ置クヘシ次ニ伊藤代表ノ陳述ニ關シ理
事會ノ審議ヲ延期スル様取計ヒタルハ決シテ同問題ヲ此ノ
儘体良ク葬去ラントスル趣旨ニアラズ御承知ノ通り同問題
ニハ英佛等ノ主要理事國ガ直接ニ重要ナル利害關係ヲ有ス
ル故之ヲ直ニ理事會ニテ審議セシムルコトハ可成リ機微ナ
ル關係モアリ果シテ日本ノ根本的主張ガ其ノ儘受諾セラル
ルヤ疑ナキヲ得ズ又他面日本ハ英佛兩國トモ現ニ交渉ヲ重
ネ居ラルル様子ナルニ其ノ結果ヲ見ルニ先立チ理事會ノ意
思表示ニ依リ右直接交渉ニ惡影響ヲ及ボスコトトモナラバ
却テ面白カラズト考ヘラル旁今回ハ理事會ノ深入リヲ避ケ
シムル方日本ト聯盟トノ關係ヲ安全ナラシムルモノト認メ
本件審議ヲ夫レトナク延期セシムル方途ニ出デタル次第ナ
リ尙又日本ノ場合トハ直接比較出來ザルモ脱退完了後ノ獨
逸ニ對スル均等待遇モ自然各國理事ノ念頭ニ置カルル問題

ニシテ兩者ニ關シ別々ノ解決ヲ與フルハ沿革上ヨリ見レバ
 兎ニ角規約ノ文理的解釋ニ基ク純理論ヨリスレバ困難ナル
 點アル處歐洲各國間ノ政治關係ヨリ見ルニ脱退後ノ獨逸ニ
 依然均等待遇ヲ保障スルハ至難ナル事情アリト思ハル兎ニ
 角右ノ爲本件ハ相當複雑ナルヲ以テ貴我双方ノ爲ニ無難ヲ
 期スル爲報告及決議案ヲ起草セル次第ニ付此ノ點誤解ナキ
 様日本政府へ御説明ヲ願度シ
 冒頭貴電ノ通り暗送セリ

12

昭和11年5月13日

在ジュネーブ木内(良胤)國際會議事務
 局長代理兼總領事代理より
 有田外務大臣宛(電報)

我が方國際連盟協力費の増額方意見具申

別電

五月十三日発在ジュネーブ木内國際會議事務局
 長代理兼總領事代理より有田外務大臣宛第一〇

九号

右意見

付記

十月十三日付、条約局第三課作成

「帝國ノ國際聯盟協力費増額方ニ關スル件」

(別電)

ジュネーブ 5月13日後発

本 省 5月14日前着

第一〇九號

(一)⁽¹⁾ 本來非聯盟國ノ部分的協力ハ規約ノ豫見セサル所ニシテ
 其ノ分擔金ニ付テモ規定ヲ缺キ居ル爲事務局トシテハ之
 ヲ非聯盟國ノ自發的申出ニ俟ツ方針ヲ執リ來リタルモノ
 ナルカ米國カ相當廣キ範圍ニ亘リ聯盟ノ事業ニ參加シ居
 ルニ拘ラス殆ト經費ヲ負擔セス而同國ノ聯盟加入ハ實
 現絶望トナリタル爲諸方面ヨリ非難、苦情ノ聲矢金敷ク
 遂ニ最近ニ至リ之カ對策ヲ研究スルノ已ムヲ得サルニ至
 リタルヲ實情トス從テ我方ニ對シテモ當初事務總長ハ協
 力自體ノ問題ト切離シ分擔金ニ付我方ノ考慮ニ一任スル
 趣旨ヲ表明シ來リタルカ(客年往電第三〇號、本年往電
 第五一號)我寄贈額案外僅少ニテ分擔金ト認メ難ク(聯盟
 カ日本及日本人ニ對シ直接支出スル費用ノミニテモ内輪
 ニ見積リ年額十六、七萬法ニ上リ我方寄附ノ年額三萬六
 千法ハ經費分擔トシテ殆ト無意味ナリ)(往電第二三號御

第一〇八號

ジュネーブ 5月13日後発
 本 省 5月14日前着

本邦ノ部分的協力ニ對スル分擔金ニ關シテハ御電訓ノ趣旨
 ニ依リ事務局側ト懇談ノ結果客年度分二萬七千法我方ノ寄
 附金トシテ受領方今同ノ理事會ニ於テ決定ヲ見タル次第ノ
 處恰モ先々週開催セラレタル監督委員會ニ於テ經費節限ノ
 問題ニ關聯シ非聯盟國ノ協力ト經費分擔トノ關係ニ付種々
 ノ議論生シ事務局ニ於テ之カ對策ヲ攻究スルコトナリタ
 ル趣ナルカ他方過般ノ保健委員會ニ於ケル極東支局次長問
 題ニ關スル人事會議(往電第一〇〇號)ニ於テモ速ニ日本ニ
 對シ經費分擔方交渉ノ必要アリトノ説有力ナリシ由ノ内報
 アリ又目下開會中ノ經費分擔委員會ニ於テモ日本分擔金ノ
 有無カ問題トナリタル由一委員ヨリ内話アリ本件ハ最近ニ
 至リ事務局内部ノミナラス各國代表部ノ間ニ於テモ頻リニ
 論議ノ題目ニ上リ居リ早晚聯盟側ヨリ我方ニ交渉シ來ルヘ
 キ形勢ニ看取セラル就テハ別電第一〇九號卓見御査閱相成
 リ至急御詮議ノ上何分ノ儀御同電アリタシ
 本電局長ト協議済

参照)事務總長トシテモ部内一般ノ意見ニ聽キ從來ノ方
 針ヲ變更シテ適當額分擔方交渉ノ必要ヲ認ムルニ至リタ
 ルモノノ如ク既ニ人事、會計擔任者ニ其ノ旨内命ヲ傳ヘ
 タル由仄聞セリ然ルニ之ヲ我國ノ立場ヨリ見ルモ苟モ部
 分的協力ヲ應諾シタル以上聯盟側ノ懇請ニ依リタルト否
 トヲ問ハス又條約正文上ノ義務ノ有無ニ拘ラス協力部門
 ノ經費ニ對シ大國トシテノ地位ニ相應スル充分ノ負擔ヲ
 分ツヘキハ當然ノ責務ナルヘク先方ヨリノ交渉ヲ待タス
 我方ヨリ進ンテ提案ヲ示シ公正ナル解決ヲ計ルヘキ儀ト
 信ス

(二)⁽²⁾ 聯盟カ國際政治上ノ重要機關トシテ存在スル以上其ノ活
 動ニ對シ無關心ナル能ハサルハ勿論我隣接ノ中、蘇二國
 カ聯盟國タルノ一事ニ見ルモ我國トシテ對聯盟關係ニ深
 甚ノ留意ヲ要スヘキハ申ス迄モナキ儀ナリ然ルニ非聯盟
 國タル我國ノ聯盟ニ對スル公然ノ連鎖ハ唯部分的協力ニ
 存シ其ノ分擔金ニ關シ公正ナル解決ヲ計ルコトハ單ニ技
 術的協力ノ問題ニ止マラス將來ニ向ケ我對聯盟關係ヲ全
 般的ニ保障スル基礎ヲ爲スモノナルニ付此ノ點特ニ御考
 慮ヲ仰度シ

(欄外記入)

(付記)

帝國ノ國際聯盟協力費増額方ニ關スル件

第一、從來ノ經緯

一、帝國ガ聯盟國タリシ間ノ聯盟經費分擔率ハ聯盟國全体ノ分擔單位合計約一千中六十單位ニシテ其ノ金額ハ二年依

(三)分擔金額ノ決定ニハ客年往電第一六四號ヲ以テ稟申ノ通り協力各部門ノ經費ニ對スル我國従前ノ分擔率(六分四厘)ニ依リ算出スル以外説明スルニ足ル公正ナル基準ヲ求メ難シト思考ス右ニ依ル概算左ノ通

協力ハ部門經費分擔額約二十萬六千法、司法裁判所經費分擔額約十六萬法、事務局中央部經費分擔額十萬法合計約四十六萬六千法(阿片中央委員會ノ分ヲ除ク)

右ハ假二一九三六年度豫算ニ基キタルモノナルカ決算ノ實績ニ依ル分擔金額ハ約二割見當ノ減少トナルヘシ

(四)財政保健兩部門ニ付減額ノ餘地アルヘキ旨稟申ニ及ヒ置キタルカ其ノ後研究ノ結果保健部ニ對シテハ全般的ニ參加シ居ルヲ以テ全率分擔ノ要アリト認メラル保健委員會改組問題及極東支局次長問題ノ討議ニ際シテハ經費分擔不十分ナル爲著シク我地歩ヲ不利ナラシメタル如ク感セラレタリ

財政部ニ付テハ客年機密本公第八八號稟申ノ通り財政委員會ニ本邦人ヲ出サルコトニ御決定アルニ於テハ同部トノ協力ヲ絶ツコトトナリ其ノ經費ニ對スル分擔額約六萬法ハ分擔金總額ヨリ削減スルコトヲ得ル次第ナリ尤其

(七)本件ノ決定ニハ將來ノ誤解ヲ避クル爲豫メ事務局側ト内協議ヲ遂クルコト必要ナルニ依リ前顯各項御承認ヲ得ル

ニ於テハ之ヲ基礎トシテ早速事務局當局ニ交渉スルコトト致度シ尙交渉ニ依リテ得タル成案ハ聯盟ニ對スル正式ノ約定ト爲サス我方自發的申入ノ形式トスルコト適當ナルヘシ

(八)客年度分ハ不充分乍ラ既ニ寄附金トシテ聯盟側ニ交付濟ナルニ付分擔金ハ本年度分ヨリ支出スルコトト致度ク(司法裁判所ノ分ハ昨年度ヨリ支出スルコトヲ要ス)萬一右不可能ノ場合ニハ來年度ヨリ實行ノ外ナキ次第ナルモ事務局側ニ對スル内交渉ハ一日モ速ニ行ヒ少額ノ寄附金ニテ經費分擔ヲ免レントスルカ如キ疑惑ヲ一掃スルコト緊要ナリト思考ス

ノ場合ニ於テモ同部ニ屬スル經濟研究部經費約七十三萬法ニ對スル分擔額ニ相當スル約四萬六千法ヲ財政部全体ニ對スル分擔金トシテ支出シ同部トノ協力ヲ持續スルコト得策ナルヘシ

(五)⁽³⁾司法裁判所ニ關シテハ貴電第一四號末段御來示ノ次第アルモ正式ニ之ニ參加シ居ル以上其ノ經費ヲ分擔スヘキハ多言ヲ要セサル所ニシテ改訂議定書實施ニ關スル問題ニ分擔額増減ノ標準ヲ求ムルカ如キハ事理明白ヲ缺ク嫌アルヘク兩者ハ全然別個ニ考慮スルヲ至當トスヘシト思考ス殊ニ長岡博士當選ヲ見タルコトニモアリ此ノ際速ニ全率分擔ノ御決定ヲ仰度シ

(六)聯盟各部門ノ事業ハ總テ事務局中央部ニ統轄セラレ各事業經費ノ一部分ハ中央部ノ豫算中ニ含マレ居ルニ付之ニ對シ相當額ノ分擔ヲ必要トスル次第ニ現ニ事務局當局ハ米國ニ對スル交渉ノ準備トシテ此ノ點ニ關シ研究ヲ進メ居ル由ナリ唯中央部經費ハ各事業ニ區分セラレ居ラサルニ依リ其ノ總額約七百四十萬法ニ對シ(人件費、物件費其ノ他一切ノ事務費、雜費ヲ含ム)大体ノ見當ニテ分擔額ヲ假二十萬法ト見積リタリ

リ多少ノ差異アリタルモ帝國ガ最後ノ全額拂込ヲ爲セル昭和九年度ニ於テハ

一、八二五、九三一・二〇金法ニテ右額ハ同年度聯盟豫算ニ應ジ大略左ノ割合ニテ聯盟各種機關ニ配分セラレタリ

常設國際司法裁判所	約八分	略十五萬法
國際労働機關經費	約二割五分	略四十五萬法
國際聯盟機關及事務局經費	約五割	略九十萬法

(他ハ聯盟會館建築費其他)

右ノ外聯盟ノ機關ニ對スル經費トシテハ新嘉坡ノ傳染病情報東局ニ對シテ其ノ創立以來毎年金一萬五千圓ヲ支出シ來レリ

二、昭和十年度ニ於テハ脫退ノ效力發生期日タル三月二十七日迄ハ日割計算ニ基ク正規ノ分擔金ヲ支拂ヒ其ノ以後ニ關シテハ聯盟各委員會トノ協力費トシテ一定ノ金額ヲ寄附金ノ形式ヲ以テ交付シ其ノ外聯盟ノ各種機關中特別ノ定アルモノ例ヘバ労働機關ノ分ニ關シテハ夫々定額ヲ分擔シタリ

三、非聯盟國トシテ年度全額ノ協力費ヲ支拂フハ昭和十一年

度ニ初マル右年度ニ於テ各種名目ノ下ニ聯盟ニ支拂フベキ金額左ノ如シ

(イ) 國際勞働機關分擔金 五四九、六七四金法
四五「サンチーム」

(ロ) 各種委員會協力費 三四、〇〇〇金法

(ハ) 新嘉坡傳染病情報東局分擔金 二五、〇〇〇圓

(從來ノ一萬五千圓ヲ右年度ヨリ一萬圓増額ス)

(ニ) 國際阿片中央委員會經費分擔 (金額協定中)

(一九二五年二月十九日壽府第二阿片條約最終議定書規定ニ基ク)

即チ從來ノ聯盟分擔金中常設司法裁判所ニ振當テラレタル分ニ該當スベキモノハ本年度ヨリ皆無トナリタル次第ナリ

第三 協力費増額方ニ關スル希望

在壽府國際會議帝國事務局ニ於テハ右協力費ノ全般的増額ヲ切望シ之ガ實現方ニ關シ數回ニ亘リ稟請ノ次第アリタル處同事務局ニ於テ右増額ヲ必要トスル論據ハ大體次ノ如シ

(イ) 協力費(前項(ロ)ヲ指ス)ハ大國タル日本ノ寄附額トシテ

キ從來會計上ノ規定ナカリシ處近キ將來ニ於テ何等カ規定ノ制定ヲ見ルベキ形勢ニアルヲ以テ右ニ先チ帝國ヨリ進デ或種ノ舉措ニ出ヅルヲ可トス

第三 協力費増額反對ノ理由

右増額ノ論據ヲ一々檢討スルニ

(イ) 非聯盟國ニシテ聯盟ト協力スル大國ハ日本及米國ナル處最初ヨリ非聯盟國タリシ米國政府ハ例ヘバ一九三四年度ニハ二六、〇〇五・九五法ノ支出ヲ爲セルニ過ギズ(尤モ米國ノ各種團體ヨリ聯盟ノ各種機關ニ對シテ爲セル寄附金ハ相當額ニ達スルモ之ハ別問題ナリ)帝國政府獨リ聯盟ニ對シ巨額ノ寄附スルノ理由ナキモノト云フベシ

(ロ) 聯盟ハ帝國ガ常任理事國トシテ年額二百萬圓ニ達スル分擔金ヲ支出シ居リタル際ニモ一朝日支事件勃發スルヤ忽ニシテ日本ヲ敵トセリ今僅カニ協力費ヲ増額セリトテ聯盟内部ノ對日策動ヲ防止シ得ル筈ナク却テ聯盟側ノ侮蔑ヲ招クニ過ギザルベシ

(ハ) 聯盟國ノ分擔金ハ聯盟ノ全機構ヲ通ジテ聯盟ノ事業ニ携ルコトヲ前提トシテ納附スルモノニシテ我方ノ如ク

過少ナリ

(ロ) 蘇聯邦及支那ガ聯盟内部ニアリテ反日的工作ヲ爲シ居ルニ鑑ミ帝國ハ聯盟トノ協力ヲ密切ニシ相當金額ヲ寄附シテ聯盟内ニ對抗の地歩ヲ築キ置クヲ要ス

(イ) 寄附額決定標準トシテハ帝國ガ協力スル一切ノ機關(政府代表ノミナラズ個人の資格ニテ邦人ノ参加シ居ル一切ノ委員會)各個ノ經費ニ從來ノ全般的分擔率タル百分ノ六・四ヲ乘ジタルモノノ合計ト爲スベシ(此ノ案ニ依ルトキハ現狀ニ於テ約二十萬金法ト爲ル)

(ニ) 現ニ定ムル寄附額ニテハ聯盟事務局其他ニ在勤スル本邦人職員俸給(事務局内二七、二〇〇法、常設國際司法裁判所七二、九〇五法)及東京通信員事務所經費(大略一萬圓)ニモ達セズ、セメテ右諸費ヲ償フニ足ル額タルヲ要ス

(ホ) 常設國際司法裁判所ニ對シテハ帝國ハ裁判所規程加入國トシテ且現ニ邦人裁判官ヲ有スル關係上國際勞働機關ニ全額分擔ヲ爲スト同様ノ根據ニテ從來通分擔スベシ

(ハ) 非聯盟國ノ聯盟トノ協力ニ關シテハ勞働機關ノ分ヲ除

單ニ専門技術的機關ニ協力スルモ其ノ最終的決定機關タル總會理事會ニ何等與ル所ナキモノカ從來ノ率ニ應ジテ釀金スベシトスルハ謂レナキ所ナリ又政府ヲ代表スルモノト個人の資格ニ基ク参加トハ之ヲ別個ニ考慮スルヲ要スルコト勿論ナリ(米國ノ例モ亦然リ)

(ニ) 國籍別職員ニ對スル俸給ト分擔金トハ何等相關關係ナシ右ハ帝國ガ聯盟國タリシ間聯盟ガ他ノ大國タル聯盟國(英佛伊等)ニ比シテ過少ノ本邦職員ヲ採用シタル例ニ見ルモ明ナリ(司法裁判所ニ關シテハ後記ノ通)

(ホ) 常設國際司法裁判所ニ對スル協力費ハ目下懸案中ナル裁判官選出手續トモ關聯スル問題ニシテ帝國ハ裁判所ノ經費負擔及裁判官選出手續ヲ聯盟ヨリ獨立セシメムコトヲ希望シ之ガ全般的解決ニ進マムトシツツアルモノニシテ今裁判所經費負擔ノミヲ切離シ解決スルハ望シカラズ

尙本件ニ關シテモ現ニ邦人裁判官ヲ有スルト否トハ別個ニ考慮スベキ問題ナリ

(ハ) 聯盟側ニ於テ單獨ニ非聯盟國ノ協力費ニ付規定スルコトアリトスルモ非聯盟國トシテ之ニ拘束セラルルコト

ナカルベキハ勿論ニシテ右ノ如キ場合ニハ我方ト聯盟トノ間ニ改メテ取極ヲ爲スヲ以テ足ルベク此ノ際我方ヨリ進ンデ協力費ヲ増加スベキ理由ニ乏シト云ハザルベカラズ

第四、結言

之ヲ要スルニ協力費ノ自發的増額ノ可否ハ帝國ノ聯盟トノ協力問題ニ關スル根本的見解ノ如何ニ依リテ決定セラルベク若シ帝國ノ協力ヲ以テ聯盟ニ對スル一部の殘留ナリト解スルニ於テハ協力費増額モ大ニ理由アリト認メラルモ事實ハ然ラズシテ帝國ノ協力ハ聯盟脱退后聯盟側ヨリノ招請又ハ希望ニ依リ一部専門機關ニ非聯盟國トシテ貢獻ヲ爲スニ過ギザルモノナルヲ以テ我方トシテハ現在ノ協力費ヲ以テ充分且適當ナリト認メザルヲ得ズ又現下ノ政治的情勢ヨリ云フモ此ノ際特ニ我ヨリ進ンデ之ヲ増額スルノ理由ニ乏シク又之ヲ増額スルトキハ却テ種々ノ憶測ヲ惹起スル虞ナキニ非ズ唯裁判所ニ關シテハ聯盟側ニ於テ之ガ經費分擔方法ニ關シ何等公正ナル解決案ヲ提示シ來ル場合ニハ之ヲ好意的ニ考慮スルコト然ルベク又之ヲ促進スルモ敢テ不可ナカルベシ

ジュネーブ 6月10日後発
本 省 6月11日前着

第一三三號

國際司法裁判所ノ裁判官選舉ニ非聯盟國ヲ参加セシムヘキ問題ニ關シ(往電第一〇一號、往電第一一二號及拙信五月十四日附普通本公第三二六號參照)十日事務總長ヨリ本官宛書翰ヲ以テ大要左ノ如ク照會シ來リタルニ付右回答振期日迄ニ御回電ヲ請フ

理事會ノ任命シタル法律家委員會ハ事務總長ニ對シ裁判所規定第四條第三項ノ適用上關係國ノ意見ニ關スル諸資料ノ提出方ヲ委嘱セル處實際上裁判所ニ於ケル二箇ノ空席ノ補缺選舉ハ臨時總會ノ議事ニ上程セラルヘク(尤モ總會ハ場合ニ依リテハ選舉ヲ九月ノ通常總會迄延期スルコトヲ得ヘシ)非聯盟國ノ選舉參加問題ハ臨時總會ニ於テ審議セラルル筈ナルニ付二十六日開催ノ理事會ニ於テ本件ニ關スル提案ヲ總會ニ爲シ得ル様右ニ對シ日本側ノ回答ヲ六月二十六日以前ニ受領致度シ
蘭ヘ暗送セリ

尙裁判所以外ノ協力費問題ハ我方ノミナラズ非聯盟國全部ニ關スル問題ナルヲ以テ聯盟側ニ於テ之ヲ再檢討シ右ニ關スル一般の規則ヲ採用シ之ヲ提示シ來ルガ如キ場合ニハ我方トシテモ之ニ對シ好意的考慮ヲ加フルニ吝ナザルベキハ勿論ニシテ本件増額問題ニ付聯盟側ヨリ何等我方ノ意向ヲ探リ來ルガ如キ場合ニモ右趣旨ニテ回答方然ルベシト思考セラル

(欄外記入)

(増額ヲ要セズト本省意見ナリ)

13

昭和11年6月10日 在ジュネーブ木内國際會議事務局長代理兼總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

常設國際司法裁判所裁判官選舉への非聯盟國參加問題に對する我が方意見連盟事務總長より照會について

付記 作成日不明、条約局第三課作成

「非聯盟國ノ常設國際司法裁判所裁判官選舉參加問題」
加問題」

(付記)

非聯盟國ノ常設國際司法裁判所裁判官選舉參加問題米國ニ於テハ常設國際司法裁判所ノ成立以來之ニ對スル加入方要望ノ聲アリ、一九二三年「ハーディング」大統領及一九二四年「クリッヅ」大統領ノ時代裁判所加入ニ關スル提案ヲ爲シ上院ノ決議ヲ求メタルモ反對論ニ制セラレテ決定ヲ見ルニ至ラザリシガ其ノ後上院ニ於テモ種々研究ヲ續ケ遂ニ一九二六年(大正十五年)一月裁判所加入案可決ヲ見ルニ到レルガ其ノ際上院ハ五箇ノ留保條件ヲ附シタリ右留保ノ(二)米國ノ裁判官選舉參加問題ニ關スル左ノ條件アリタリ

「合衆國ハ特ニ任命セラルル代表者ニ依リ竝ニ國際聯盟ノ理事會及總會ノ夫々會員タル他ノ國ト均等ノ基礎ニ於テ常設國際司法裁判所ノ裁判官若ハ豫備裁判官ノ選任ノ爲又ハ空席補充ノ爲ノ理事會又ハ總會ノ一切ノ手續ニ參加スルコトヲ許サルヘキコト」

仍テ國際聯盟ニ於テハ右米國上院ノ決議ノ趣旨ヲ採リ入レ、米國ノ加入ヲ可能ナラシムル爲執ルベキ措置ヲ講究シタルガ種々ノ曲折アリタル後一九二九年九月四日ヨリ壽府

ニ開催セラレタル裁判所規程改正ニ關スル署名國會議ハ大體ニ於テ前記米國上院ノ決議ノ趣旨ヲ容認シタル全文八條ヨリ成ル米國ノ裁判所加入ニ關スル議定書案ヲ採擇シ他方折柄開催中ナリシ第十回聯盟總會モ均シク之ヲ可決セルニ付右議定書ハ直ニ各國署名ノ爲ニ開カレタリ(我國ニ於テハ前記署名國會議ニ全權委員トシテ參列シタル瑞西國駐荷吉田公使ヲシテ之ニ署名セシメタリ)

右議定書第二條ハ裁判官選舉參加ニ關シ左ノ如ク規定ス

「合衆國ハ其ノ特ニ指名スル代表者ニ依リ且理事會又ハ總會ニ代表者ヲ出セル國際聯盟ノ聯盟國タル署名國ト均等ノ地歩ニ於テ裁判所規程ニ規定セラルル常設國際司法裁判所ノ裁判官又ハ豫備裁判官ノ選舉ヲ目的トスル理事會又ハ總會ノ一切ノ議事ニ參加スルコトヲ許サルベシ合衆國ノ投票ハ規程中ニ要求セラルル絕對多數ノ計算ニ算入セラルベシ」

然ルニ同議定書ハ一九三五年一月二十九日米國上院ニ於テ表決ノ結果贊成五十二反對三十六ニテ所要ノ三分ノ二ノ票數ニハ七票不足ニテ否決セラレタル爲今日猶ホ未實施ノ狀態ニ在リ

方ニ於テ行フコトトセルハ(一)裁判所加入國カ全部聯盟國タルコトヲ前提トシ且(二)大國及小國ノ利益及主張ヲ調和スルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ其ノ當時ニ於テ大ニ理由アル考案ナリシモ最近裁判所加入國ニシテ聯盟國タラサルモノヲ生シ益々其ノ數ヲ増加セントスル傾向ニ在ルヲ以テ純理論トシテハ裁判所ヲ聯盟ノ機構ヨリ分離シ裁判官ノ選舉ハ非聯盟國ヲ含ム一切ノ裁判所加入國ヨリ成ル特別ノ選舉團體ニ於テ之ヲ行フヲ至當トスヘシ然レトモ裁判所ノ沿革上右改正ヲ困難トスル事情アリ將又右可能ナリトスルモ一切ノ關係國ノ批准ヲ要スル關係上相當ノ長時日ヲ要スヘキニ依リ右改正實現ニ至ル迄ノ間帝國トシテハ少クトモ米國ニ對シ嘗テ認メラレタルト同一ノ地位即チ總會及理事會双方ニ於ケル選舉權ヲ求メサルヲ得ス、蓋シ我國ハ原聯盟國トシテ聯盟成立以來常任理事國トシテ裁判所ノ設立及維持ニ關與シ來リタル處右地位ハ單ニ聯盟脫退ナル偶發の事實ニ依リ消滅シタリト解セラルヘキニアラス、我國ハ裁判所規程ノ原署名國タルノミナラス裁判所規程ノ作成及改正ニ際シテハ我方ハ常ニ之ニ協力シ來リタル外現實ノ問題トシテモ裁判所設立以來織田、安達、長岡ノ各博士連續シテ裁判

上敍ノ如キ經緯ヲ以テ米國ノ裁判官選舉參加條件ハ一應決定ヲ見タルガ一方前記一九二九年九月ノ署名國會議ニ於テ作成、各國ノ署名ヲ得タル裁判所規程改正議定書モ其ノ後久シク實施ニ必要ナル條件充タサレザリシ爲未實施ノ狀態ニ在リシガ聯盟側ノ斡旋ニ依リ此ノ程漸ク支障モ除去セラレ本年二月一日ヨリ實施セラルルニ到リタル處改正ヲ見タル第四條第三項新條文(註參照)ノ適用ニ依リ聯盟總會ハ裁判所規程受諾國タル非聯盟國ガ裁判所ノ裁判官ノ選舉ニ參加スル條件ヲ理事會ノ提議ニ基キ決定スルコトナレリ

仍テ去ル五月開催ノ聯盟理事會ハ英、佛、伊、西、波蘭及智利ノ法律家ヨリ成ル專門家委員會ヲ任命シ、之ニ對シ本問題ヲ研究シ、次回理事會(六月下旬)迄ニ具體案ノ提出方ヲ委囑シタリ

同法律家委員會ハ右研究ニ先立チ關係國タル我國、獨逸及伯刺西爾ノ意見ニ關スル資料入手ノ必要ヲ認メ、事務總長

ニ對シ之カ爲斡旋方依頼アリタル趣ヲ以テ事務總長ヨリ六月十日附ヲ以テ本件ニ關スル我方ノ回答ヲ六月二十六日以前ニ受領シタキ旨申越シタリ

元來裁判所設立當時本件裁判官ノ選舉ヲ總會及理事會ノ双官タリ我國ノ裁判所ニ對シ有スル關係ハ米國カ之ニ對シ有スル關係ヨリ比較シ難キ程緊密ナルモノアリ各國カ既ニ米國ニ對シ附與スルコトヲ約諾シタル地位ヲ我方ニ拒ム理由ナカルヘク又我方トシテモ今更一般聯盟國ヨリ劣等ノ地歩ニ於テ總會ノミノ裁判官選舉ニ參加シ得ト云フカ如キハ到底受諾シ難キ所ナリ

尤モ我方ノ要求ニシテ貫徹セラレタル場合ニハ(一)米國カ裁判所加入ニ際シ理事會ト均等ノ地歩ヲ獲得スルニ到リタルハ之ト關聯シ理事會ナミニ裁判所經費ヲ負擔スルコトヲ一方的ニ約シ居ル關係モアル一方(二)我國ハ聯盟脫退後ハ裁判官ノ選舉權ナキコトヲ主タル理由トシテ裁判所經費ヲ支辨シ居ラサル現状ナルニ依リ、我國カ聯盟國タリシナルニ於テハ當然支拂フヘキ裁判所經費分擔額トシテ毎年約十萬瑞西法見當ノ支拂ハ之ヲ覺悟セサルヘカラサルヤニ思考セラル

尙萬一前記我方ノ要求ニシテ容レラレサル場合ニ(一)現状ヲ以テ満足スルヤ(二)獨逸ノ如キ非協力的態度ニ出ツルヤ(三)將又斷乎トシテ裁判所ヨリノ脫退ヲ敢行スヘキヤハ本件我方要求案ニ對スル聯盟ノ態度ヲ見定メタル上ニテ慎重考慮ス

ルコトド致度

(註)新第四條第三項

特別ノ取極ナキトキハ聯盟總會ハ、裁判所規程ヲ受諾シタルモ國際聯盟ノ聯盟國ニ非サル國カ裁判所ノ裁判官ノ選舉ニ參加スルコトヲ得ル條件ヲ聯盟理事會ノ提議ニ基キ決定スヘシ

14

昭和11年6月25日 有田外務大臣より
在ジュネーブ木内國際會議事務局長代理兼總領事代理宛(電報)

常設國際司法裁判所裁判官選舉への非聯盟國參加問題に対する我が方意見連盟事務総長へ
回答方訓令

本省 6月25日後5時発

第六四號(至急)

貴電第一三三號ニ關シ

「帝國政府ハ嘗テ聯盟常任理事國トシテ裁判所ノ設立及發達ニ積極的ニ貢獻シ聯盟脫退後モ裁判所規程ニ關スル署名議定書及其ノ改正議定書ヨリ脫退スルコトナク引續キ裁判所ノ事業ニ協力ヲ繼續シ居リ此ノ點ニ於テ帝國政府

ルヘキモノト思考スル」旨回答方取計ハレ度ク尙前記一及二ノ趣旨ヲ口頭ニテ事務總長又ハ係官ニ説明シ置カレ度シ

15

昭和11年7月7日 在ジュネーブ木内國際會議事務局長代理兼總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

連盟法律家委員會が提議する常設國際司法裁判所裁判官選舉への非聯盟國參加規則案について

ジュネーブ 7月7日後発
本省 7月8日前着

第一五九號

往電第一四九號ニ關シ(非聯盟國ノ裁判官選舉參加條件ノ件)

「法律家委員會ノ理事會宛報告案ハ未タ發表セラレサルモ原田ノ談ニ依レハ同案ハ非聯盟國ノ選舉參加ニ關シ總會カ滿場一致ニ依リ左ノ如キ選舉規則採擇方ヲ提議シ居ル趣ナリ

(イ)非聯盟國カ選舉ニ參加ノ希望ヲ表示スルトキハ原則ト

ト裁判所トノ關係ハ米國等ノ場合ニ比シ遙カニ緊密ナル關係ニ在リ

三、聯盟總會ハ一九二九年非聯盟國タル米國ニ對シ裁判官選舉ニ付常任理事國ト均等ノ地位ヲ與フヘキコトニ同意シタル處聯盟側ニシテ裁判所ニ對スル關係米國ニ比シ遙カニ深キ帝國ニ對シ米國ト同様ノ地位ヲ賦與スルコトヲ拒否シ單ニ總會ニ於ケル選舉權ノミヲ認メントスルカ如キ態度ニ出ツルニ於テハ我國ハ永久ニ一般聯盟國(理事國タル間ハ理事會及總會ノ双方ニ於テ投票權ヲ有ス)ヨリモ劣等ナル待遇ヲ受クルコトトナリ嘗テ常任理事國タリシ帝國トシテ斯カル地位ヲ甘受シ難キコトハ當然ナリ
三、就テハ貴官ハ事務總長照會ニ對シ「常設國際司法裁判所規程受諾國中非聯盟國アルノ事實ニ鑑ミ帝國政府ハ本件裁判官選舉カ聯盟ノ機關タラサル特別ノ(ad hoc)選舉團體ニ於テ行ハルコトヲ妥當ナリト信シ之カ爲裁判所規程ノ改正ヲ希望スト雖モ右實現ニ至ル迄ノ間ハ少クトモ本件選舉ニ關シ同裁判所規程署名國又ハ聯盟總會カ何レカノ非聯盟國ニ對シテ賦與スヘキコトヲ嘗テ受諾シ又ハ將來受諾スルコトアルヘキ地位ニ劣ラサル地位ヲ認メラ

シテ總會ノ選舉ニ參加スルコトヲ得

(ロ)非聯盟國カ同時ニ理事會ノ選舉ニ參加ヲ希望スルトキハ總會ハ選舉毎ニ三分ノ二ノ票決ヲ以テ其ノ可否ヲ決スルコト

(ハ)事務總長ハ各選舉ニ先立チ非聯盟國ニ對シ一々通告ヲ發スルコト

三、一委員ハ總會カ右ノ選舉規則ニ依リ非聯盟國ニ對シ一度理事會參加ヲ受諾スルトキハ將來ノ選舉ヲ通シ其ノ受諾カ有效ナリトスヘキコトヲ主張セルモ容レラレス又智利委員ハ一般ノ豫想ニ反シ強硬ニ伯國ノ理事會選舉參加受諾方ヲ主張シタル處委員會ハ理事會ヨリ委任セラレタル任務カ非聯盟國ニ關スル選舉規則ノ制定ニ付意見ノ具申ニ限ラレ各國別ニ其ノ選舉資格ヲ決定スルハ委員會ノ權限外ニ屬スト爲シテ之ヲ斥ケタリ尤委員會ハ理事會トシテハ自ラ適當ト認ムル如何ナル提案ニテモ總會ニ提議スルノ自由アルコトヲ指摘セル由ナリ

英、佛、伊、蘭ヘ暗送セリ

16 昭和11年8月17日
在ジュネーブ横山国際会議事務局局長代
理兼総領事より
有田外務大臣宛(電報)

我が方事務局の名称変更の必要性について

ジュネーブ 8月17日後発
本 省 8月18日前着

第一七二號

當事務所ハ非聯盟國タル本邦ト聯盟諸機關トノ聯絡ヲ經トシ當地ヲ中心トスル諜報及啓發ヲ緯トシテ重要ナル機密外交事務ヲ擔當シ居ルニ拘ラス對外關係上ハ單ニ總領事館ノ名稱ヲ稱ヘ居ル爲瑞西ノ法制及當市ノ特殊地位ニ基キ何等ノ外交特權ヲ享有シ得ス列國代表部トノ聯絡上モ種々ノ困難アリ當事務所ノ任務達成上多大ノ不便ヲ感シ居ルコトハ豫々詳細稟申ノ通りナル處今般歸任後一層其ノ感ヲ深メタリ就テハ客年八月八日附拙信機密本公第五三三號稟請ノ通り當事務局ノ存在ヲ瑞西聯邦政府ニ通報スルノ件ニ付至急何分ノ儀御詮議ヲ仰キ成ルヘク堀田局長ノ歸朝出發ニ先立ち之カ解決ヲ期スルコトト致度ク同局長トモ熟議セルカ瑞西政府トシテハ寧ろ總領事館ノ名稱ヲ廢シ之ヲ國際會議事務局ト爲ス方特權附與容易ナリトコトナルニ付此ノ際斷

ジュネーブ 9月12日後発
本 省 9月12日夜着

第一八二號

往電第一七九號ニ關シ

(家大)

事務總長ヨリ十一日附書翰ヲ以テ法律委員會案カ理事會及總會ニテ採擇セラルル場合右案ハ今次總會ニ於ケル判事選舉ニ際シ最初ノ適用ヲ見ル次第ナルカ委員會案ノ採擇ト選舉施行トノ間ニハ時間ノ餘裕ナキニ付前以テ我方ニ於テ選舉ニ參加ノ意嚮アリヤ殊ニ理事會ニ於テ投票ノ希望アリヤ否ヤニ付承知シ度キ旨申越シタリ就テハ右ニ對スル回答振至急御同電ヲ請フ

英、佛、蘭へ暗送セリ

18 昭和11年9月16日
有田外務大臣より
在ジュネーブ横山国際会議事務局局長代
理兼総領事宛(電報)

連盟法律家委員会規則案の採択を前提とした
常設国際司法裁判所裁判官選挙参加照会には
回答し得ない旨連盟事務総長へ申入れ方訓令

本 省 9月16日後1時10分発

然右變更(前記拙信(二)ノ項御參照)ヲ實現シ得ル様御詮議ヲ請フ尙右ト同時ニ名譽顧問「ケルン」ヲ名譽總領事ニ任命セラレ當館ノ領事事務ヲ之ニ引繼クコトトセハ當事務局ノ立場ヲ一層明確ナラシメ任務遂行ヲ容易ナラシムヘシト存セラル

追テ事務局ノ名稱トシテハ既ニ聯盟トノ協力關係確立セル今日ニ於テハ之ヲ Délégation japonaise pour la collaboration avec la Société des Nations トスルコト外部トノ聯絡上最モ便宜ナリト思考スルモ右不可能ナルニ於テハ前記拙信末尾掲記ノ名稱ヲ瑞西政府ニ通報シ且事務局官制第一條ノ趣旨ヲ説明シ聯盟トノ協力機關ナル旨ヲ附言シ置クコトト致度ク此ノ點併セテ御詮議ヲ請フ

17 昭和11年9月12日
在ジュネーブ横山国際会議事務局局長代
理兼総領事より
有田外務大臣宛(電報)

連盟法律家委員会提議の規則案による常設国際司法裁判所裁判官選挙への我が方参加意向
連盟事務総長より照会について

第三三號

貴電第一八二號ニ關シ

事務總長照會ニ對シテハ左ノ趣旨ニテ回答セラレ度シ本件ニ關スル帝國政府ノ見解ハ曩ニ六月二十九日附事務總長宛申進置タル通ナル處(以下爲念我方主張ヲ反覆セラレ度シ)帝國政府ニ於テハ法律家委員會ノ報告後ニ於テモ右見解ヲ變更スヘキ理由ヲ見出し得ス加之今次事務總長ノ書翰ハ法律家委員會案ノ採擇ヲ前提トシテ我方ノ意向ヲ照會シ來レルモノナルヲ以テ我方トシテ之ニ回答シ得ヘキ地位ニ在ラサルヲ遺憾トス

19 昭和11年9月25日
在ジュネーブ横山国際会議事務局局長代
理兼総領事より
有田外務大臣宛(電報)

連盟法律家委員会提議の常設国際司法裁判所裁判官選挙への非連盟国参加規則案に対し連盟理事会が大幅修正決議採択について

別 電 九月二十五日発在ジュネーブ横山国際会議事務局局長代理兼総領事より有田外務大臣宛第一九一

号

右決議要旨

ジュネーブ 9月25日後発
本 省 9月26日前着

第一九〇號

貴電第八三號ニ關シ

御來示ノ趣然ルヘク事務總長ヘ申入レ置キタル處其ノ後南米諸國等ノ運動ノ結果法律委員會案ニ大修正ヲ加ヘ二十五日午後ノ理事會非公開會合ニ於テ別電第一九一號ノ決議採擇セラレ右ハ近ク總會ノ承認ヲ經ヘキ見込ナリ

右解決ハ一九四〇年迄トノ期限附ナル點ニ於テ未タ我方ノ主張ヲ完全ニ容認シ居ル譯ニアラサルモ聯盟ニ於テハ手續上長時日ヲ要スル恆久的解決ヲ計ルコト選舉期日切迫セル此ノ際不可能ナル爲先ツ右過渡的手段ニ依リ日本ノ特殊地位ヲ一應認メ置キ更ニ此ノ既成事實ヲ基礎トシテ追テ之ヲ恆久化スル確定手段ヲ講セントスル意嚮ニシテ殊ニ一九三九年ノ判事總選舉ニモ同様理事會ニ參加シ得ル次第ナルニ付我方トシテハ一應右ヲ了承シ不取敢今回ノ選舉ニ參加セラルコト得策ト存セラル

右ニ關シ伯國總領事ハ右ハ南米各國代表斡旋ノ結果此ノ際

舉ニ付理事會ノ投票ニモ參加シ得ルコトヲ臨時的ニ且何等主義上ノ點ニ觸ルルコトナク承認スヘキコト
右期日以後ノ選舉ニ付理事會參加方ノ件ニ關シテハ將來改メテ總會ニ提案スヘキコトヲ留保ス
英、佛、獨、伊、蘭ニ郵送セリ

20

昭和11年10月5日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

聯盟總會および理事會で行われる常設國際司法裁判所裁判官選舉への我が方参加意向聯盟事務總長より照会について

ジュネーブ 10月5日後発
本 省 10月6日前着

第二〇四號(至急)

往電二〇二號ニ關シ

事務總長ヨリ本官宛書翰ヲ以テ本件決定ニ關スル總會ノ措置ヲ正式ニ通報スルト共ニ八日午後「シユツキング」及「ケロツグ」ノ後任(連記)ト王寵惠ノ後任(單記)トノ二回ニ分チ總會及理事會ノ雙方ニ於テ同時ニ選舉ヲ施行スルニ

最上ノ解決ト認メラルル故之ヲ應諾シ日本ノ參加ヲ是非希望スト内話セリ

總會ノ採決振ハ追テ電報スヘキカ右ニ對スル處置振豫メ御詮議置キ相成度シ

英、佛、獨、伊、蘭ヘ暗送セリ

(別電)

ジュネーブ 9月25日後発
本 省 9月26日前着

第一九一號

國際司法裁判所判事選舉手續ニ關スル理事會決議要旨左ノ通

裁判所規定第四條第三項ニ鑑ミ左ノ通り總會ニ提案ス

(イ)非聯盟國タル裁判所規定當事國ノ政府カ事務總長ニ對シ判事選舉ニ參加方申込ミタル場合ニハ同政府カ權利トシテ總會ノ選舉ニ參加スルコトヲ認ムヘキコト

(ロ)尙獨逸、伯刺西爾及日本ハ非聯盟國ナルモ規定當事國タル資格ニ於テ事務總長ニ對シ其ノ希望ヲ申込ミタル場合ニハ一九四〇年一月一日以前二行ハルヘキ總テノ判事選

決セルコトヲ告ケ我方ニ於テ右選舉ニ參加ノ希望ナラハ代表者ノ氏名ヲ至急承知シ度キ旨申越セリ就テハ右ニ對スル回答振折返シ御同電ヲ請フ
追テ若シ參加ノ場合ニハ何人ニ投票スヘキヤモ爲念御回示アリ度シ

21

昭和11年10月5日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

聯盟總會において英國代表から原料取引の公平・機会均等問題検討のための委員会設置決議案提出について

ジュネーブ 10月5日後発
本 省 10月6日前着

第二〇五號

五日午前第二委員會ニ於テ經濟問題ノ審議ニ際シ英國代表「モリソン」ハ經濟委員會報告ノ國際取引機構改造案ニ基ク世界不況打開策トシテ通商障害ノ撤廢ヲ主張シ右ニ關スル國際協力ノ必要ナルヲ説キ佛國ニ於ケル平價切下ニ關スル英米佛三國協定ヲ舉ケテ英國ハ此ノ種協力ニ關スル關係

22

昭和11年10月5日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理
兼総領事より
有田外務大臣宛

委任統治委員会報告における連盟脱退国とシ
リア・レバノン等との通商協定に関する部分
について

機密本公第六三五號
(10月22日接受)

昭和十一年十月五日

在壽府

國際會議帝國事務局長代理兼

總領事

横山 正幸(印)

外務大臣 有田 八郎殿

委任統治委員会報告ニ關スル件

九月二十六日ノ理事會ニ於テ「パレスタイン」及上部「ジ
ヨルダン」地方「シリア」及「レバノン」「タンガニカ」
「ナウル」「ニューギニア」西南「アフリカ」ノ六地方ノ年
報ヲ審査セル第二十九回常設委任統治委員会ノ報告ニ關ス
ル「ルーマニア」理事ノ報告ヲ採擇セラレタル次第ハ別紙
ノ通りナルカ右「ルーマニア」理事報告要旨ノ四ニ於テ委
員會ハ聯盟脱退國ト「シリア」「レバノン」及「パレスタ

各國間ノ相互協定ニ參加ノ用意アル旨ヲ聲明シタル後原料
ノ取引ニ關スル公平ナル機會均等問題ニ關シ左ノ決議案ヲ
提出セリ

總會ハ商取引ニ依ル或種原料品ノ取得ヲ各國ニ取り均等ナ
ラシムル問題カ今ヤ檢討ノ時機ニ達セルヲ認メ右ニ關シ生
産國或ハ消費國ノ孰レヲ問ハス特別利害關係アル非聯盟國
ト協議ノ上經濟、財政兩委員会委員及他ノ適任者ヲ按排セ
ル特別委員会ヲ任命シ本問題ヲ研究報告セシムルコトヲ理
事會ニ要請ス而シテ研究スヘキ原料ノ選定ハ之ヲ右委員会
ニ一任スルコトヲ勸告ス

佛國代表ハ英案ニ賛成シタル後納稅義務ヲ回避スル爲國內
ノ資本カ國外ニ逃避スルヲ防止スルコト財政々策上必要ナ
リトノ意見ニテ右ニ對スル決議案ヲ追テ提議シ度シト聲明
セリ

波蘭代表ハ經濟委員会ノ報告ニ係ル通商ノ自由ノミニ依ル
不況打開策ノ缺陷ヲ指摘シ資本流動ノ自由及移民制限撤廢
等ヲ主張セリ

英、佛、伊、波蘭ニ郵送セリ

イン」地方トノ通商協定ニ關シ此等地方ノ利益ヲ尊重スル
ト共ニ一般聯盟國ノ利益ノ侵害セラレザランコトヲ望ム旨
ノ希望ヲ漠然ト表示シ居リ其ノ意味必スシモ明確ナラサル
處委細ハ委員会議事録(C. 259. M. 153. 1936. VI.) (八月二
十四日附普通本公第五一〇號拙信參照 佛文第十二頁第百
十二頁第百五十四頁及第百五十五頁ニ付御承知相成度シ

23

昭和11年10月7日
有田外務大臣より
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼總領事宛(電報)

連盟總會および理事會で行われる常設國際司

法裁判所裁判官選挙に我が方も参加する旨連

盟事務総長へ回答方訓令

付記 作成日、作成局課不明

「常設國際司法裁判所判事選挙ニ参加方ノ件」

本省 10月7日午後6時15分発

第八六號(至急)

貴電第二〇四號ニ關シ

「事務總長來翰ニ對シテハ左ノ趣旨ヲ以テ我方ノ立場ヲ明

カニシタル上貴官及木内書記官ニ於テ夫々選舉團體トシ
テノ理事會及總會ニ於ケル選舉ニ參加スヘキ旨回答アリ
度シ

「帝國政府ハ曩ニ事務總長照會ニ對スル二回ノ回答中ニ
開陳シタル見解ヲ今猶堅持スルモノニシテ之カ爲署名國
ガナルベク速ニ適當ノ措置ヲ講スルコトヲ希望スル次第
ニシテ今次總會ノ決定ハ遺憾ナガラ未タ右帝國政府ノ見
解ニ合致セザル所アルモ右ハ一九四〇年一月一日迄ノ暫
定的措置ニ過ギザルニモ鑑ミ帝國政府ハ成ル可ク近キ將
來ニ於テ其ノ要望ノ全般的實現ヲ見ルヘキコトノ熱心ナ
ル期待ノ下ニ今回ノ選舉ニ參加スルモノナリ」

「クロック」及「シュキング」ノ後任トシテハ「ハドソ
ン」(米)及「ハンマーショード」(瑞典)又王寵惠ノ後任ト
シテハ「ミュニール、エルテグン」(土)ニ投票セラレ度
シ

「尙今次帝國政府ノ選舉參加ハ貴方ニ於テモ當方ニ於テモ
之ヲ事務的ニ處理シナルベク政治的反響ヲ惹起セサル様
致度キ所存ナルニ付右御含アリ度シ

伯、蘭へ轉電シ英、佛、伊へ暗送アリタシ

(付記)

常設國際司法裁判所判事選舉ニ參加方ノ件

(欄外記入)

一、常設國際司法裁判所判事ノ選舉ハ聯盟總會及理事會ノ双方ニ於テ行ハルルモノニシテ非聯盟國モ主義トシテハ右選舉ニ參加シ得ベク唯右參加ノ條件ヲ聯盟總會ニ於テ決定スルコトナリ(新規程第四條)今回ノ總會ニ於テ

(イ)非聯盟國ハ總テ聯盟總會ニ於ケル選舉ニハ權利トシテ參加シ得ルモ

(ロ)理事會ノ選舉ニ就テハ日、獨、伯ノ三國ハ一九三九年未迄臨時的ニ選舉ニ參加シ得

トノ決定ヲ爲シ昨日事務總長ヨリ帝國ガ本月八日ニ行ハルベキ補缺選舉ニ參加ノ希望アラバ代表者ノ氏名ヲ承知シ度旨照會越セリ

ニ帝國政府ハ曩ニ本件選舉權問題ニ關スル事務總長ヨリノ照會ニ對シ帝國トシテハ聯盟ノ機關以外ノ特別ノ選舉團體ニ於テ選舉ヲ行フコトヲ妥當ナリトシ之カ爲裁判所規程ノ改正ヲ希望スルモ之カ實現ニ至ル迄ノ間ハ少クトモ選舉權ニ付他ノ非聯盟國ノ地位ニ劣ラサル地位ヲ要求ス

(欄外記入)

昭和十二年十月六日午後五時半外務大臣ヨリ總理ヘ電話ニテ諒解スミ

24

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事ヨリ
有田外務大臣宛(電報)

昭和十一年十月十日

聯盟總會における原料取引の公平・機会均等問題検討のための委員会設置決議採択について

ジュネーブ 10月10日後発
本 省 10月11日前着

第二一六號

往電第二〇五號ニ關シ

九日第二委員會ハ經濟財政問題ノ審議ヲ了シ左ノ要項ヨリ成ル四種ノ總會決議案ヲ採擇セリ

一、總會ハ一九三六年九月二十六日ノ英、米、佛三國共同聲明及之ニ對スル多數諸國ノ即時參加ニ付満足ノ意ヲ表シ右聲明ハ經濟委員會報告中ノ勸告ノ趣旨ト一致セルヲ認メ又各國間ノ恒久的經濟的機能ヲ恢復シ經濟關係ノ基調ヲ一層鞏固ナラシメ且國際通商ヲ助成發達セシムルコト

ル旨回答シタル關係上今回ノ總會ノ決定ハ理事會ニ於ケル帝國ノ選舉權ヲ一九三九年迄臨時的ニ認メタルニ過キサル點ニ於テ前記我方ノ主張ヲ全般的ニ認メ居ラサル次第ナリ

三、事情右ノ如クナルヲ以テ今同事務總長ヨリノ照會ニ對スル回答振トシテハ

(一)理論上我方ノ主張カ貫徹セラレサリシコトヲ理由トシテ選舉ニ參加セサルカ

(二)少クトモ一九三九年迄ハ實際上ニ於テ我方ノ主張カ貫徹セラレタルト同一ノ結果ヲ生ストノ見地ヨリ無條件ニテ選舉ニ參加スルカ

ノ二方法ヲ考ヘ得ルモ(一)ハ一九三九年ニ行ハルヘキ判事ノ總選舉ニモ參加シ得サルノ不利アルノミナラス同年以後ニ於ケル我方ノ選舉權要求ニ累ヲ及ホスノ虞アリ又(二)ハ前記我方ノ主張ヲ拋棄セリトノ印象ヲ與フル危險アルニ付第三案トシテ我方從來ノ主張ハ飽迄之ヲ堅持スルモノナルコトヲ明示シテ今回ノ選舉ニモ參加スルコトヲ致度シ

ヲ目的トセル協調政策ハ平和ノ國際秩序ヲ復興、世界的繁榮ノ發達及各國民ノ生活上ニ貢獻スヘキモノナルコトヲ惟ヒ各聯盟國一般ノ希望カ右目的達成ノ努力遂行ニアルヲ確認シ聯盟國非聯盟國ノ何レヲ問ハス一切ノ諸國ニ對シ之カ爲ニ充分ナル協力ヲ與ヘンコトヲ要請シ右達成ノ主要條件トシテ國際通商及交通ニ對スル過大ナル障礙ヲ削減シ就中輸入割當及爲替管理ノ現制度ヲ緩和シ又出來得ル限り速ニ之ヲ全廢シ以テ前掲政策ノ實施ヲ確保センカ爲此ノ際遲滯無ク決定的且持續的ノ活動ヲ組織センコトヲ一切ノ諸國ニ對シ緊切ニ勸告ス

(2)總會ハ一切ノ諸國ニ取り均等ナル商取引ニ依ル或種原料品取得問題ノ検討及研究カ聯盟國ト非聯盟國トノ別ナク之ニ特殊利害關係ヲ有スル主要諸國ノ協力ノ下ニ有益ニ行ハレ得ルノ時期カ今ヤ到來セルコトヲ惟ヒ理事會ニ對シ其ノ適當ト認ムル時期ニ經濟財政兩委員會及國籍ニ關係ナク選定セル適任ノ専門家ヲ適當ノ割合ニ按配シ本問題ヲ研究ノ上報告ヲ提出セシムル爲一委員會ヲ設置セムコトヲ勸告シ研究セラルヘキ原料品ノ選定ハ右委員會ノ裁量ニ一任スヘキモノト認メ特ニ利害關係アル諸國ノ

専門家カ右委員會ノ仕事ニ参加スルコトハ其ノ國カ聯盟員タルト否トニ關係ナク希望スヘキコトナルヲ認メ理事會カ決定ヲ爲スニ當リ以上ノ考量ヲ参照セムコトヲ勸奨シ且本決議ハ之ヲ非聯盟國各國政府ニ通報スヘキコトヲ事務總長ニ依囑ス

三⁽³⁾ 總會ハ資本ノ國際流通ニ對スル障礙ヲ制限スルノ努力ハ脱稅行爲助成ノ結果ヲ招致スヘカラサルコトヲ惟ヒ又二重課稅ハ脱稅行爲ヲ誘致スル一原因トナルト同時ニ國際經濟財政關係ノ發達ヲ著シク阻害スルモノナルヲ認メ而シテ唯獨リ國際協力ニ關スル明確ナル協定ニ基ク共同措置ノミカ課稅額ノ正確ナル基準及公平ナル割當ヲ確保シ得ヘキモノナルヲ確認シ租稅委員會カ出來得ル限り脱稅ヲ禁遏スル爲ノ實際的解決ヲ促進スル爲最大限度ニ二重課稅ヲ阻止シ且財政上ノ國際共助ヲ助長スル事業ヲ活潑ニ遂行センコトヲ要請ス

四 國際公益ノ發達ハ單ニ商品ノ國際取引ノミナラス資本及人間ノ移動ニ付テモ同時ニ之ヲ計ルノ要アル處現在移民ノ移動カ停止セラレ居ル實狀ニ顧ミ總會ハ來ル十一月國際勞働機關ノ移民委員會カ開催セララルヲ歡迎シ同委員

ハ大體ニ於テ技術的諸問題ノ事務的處理以外ニハ聯盟改造、軍縮會議再開及國際經濟機構改善等ニ付過渡的決定ヲ爲シタルニ止マリ政治的重要案件ニ付テハ消極的態度ヲ以テ終始シ又議場外ノ交渉モ格別ノ發展ヲ遂ケサリシカ總會ノ經過ヲ顧ミ注意ニ値スト認メラレタル諸事項爲念一括左ノ通り概報ス

一、伊「エ」紛争ニ付テハ總會ハ唯侵略ニ基ク既成事實ノ承認ヲ避クルト共ニ實質的論争ノ再燃ヲ防止セリ最初「エ」國代表資格審査ニ付事態紛亂ヲ來セル事情ハ往電第一八八號所報ノ通りナルカ右解決ニ依リ主義上ノ満足ヲ得タル小國側ハ蘇聯ト共ニ其ノ後大勢ニ順應セル爲「エ」國代表ノ演説モ單ナル儀禮的拍手ニ葬ラレ何等ノ反響ヲ生セス總會ハ却テ伊國ニ副議長ノ一席ヲ與ヘ其ノ不滿緩和ヲ圖リ伊國亦自重待機ノ姿勢ヲ以テ之ニ應セリ

二⁽²⁾ 極東ノ事態ニ付テモ總會ハ最早何等ノ關心ヲ示サス往電第一九四號ノ顧維鈞ノ演説モ總會代表ノ或一部ニハ多少不安ノ念ヲ與ヘタルラシキモ少クトモ表面的ニハ「エ」國代表ノ分ト其ノ運命ヲ共ニセリ(支那ノ理事國再選及判事當選ハ右ト直接ノ關係ナシ)唯「リトヴィノフ」ハ

會及勞働事務局カ是等經濟及社會上ノ諸問題ノ解決ヲ容易ナラシムル爲即時實行可能ナル實際的提案ヲ作成スヘキヲ確信シ理事會ニ對シ右會議ノ經過ヲ注視シ且國際勞働事務局ト接觸ヲ保チ必要ニ應シ聯盟ノ關係機關カ右事業ニ援助ヲ與ヘンコトヲ勸奨シ又次期ノ通常總會ハ日程ニ移民問題ヲ上程センコトヲ決議ス

英、佛、伊ニ郵送セリ

25

昭和11年10月15日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

今次連盟總會の経過において注意に値すべき諸事項について

ジュネーブ 10月15日後発
本省 10月15日夜着

第二二二號

最近歐洲各國カ内外ニ亘リ左右兩極派ノ抗争ニ惱ミ國際政局益々混沌タル折柄今次ノ總會ニハ政治上多クヲ期待シ得ス興味ハ寧ろ新「ロカルノ」會議ノ準備工作タル裏面外交ニ存スヘシトハ開會前ヨリ一般ニ豫想セラレ居リシ處總會

主トシテ「ニユーレンベルグ」ノ演説ニ答ヘ獨逸ヲ槍玉ニ擧ケタル往電第一九五號ノ演説ニ於テモ亦一般委員會其ノ他ノ討論ニ於テモ現状維持ニ不滿ナル侵略主義ノ國トシテ日本ヲモ獨、伊ト同様危險視スヘシトノ諷刺ヲ含メル警告ヲ繰返シ總會代表ノ多數カ聯盟ノ世界性ヲ挽回スル爲内々本邦ノ復歸ヲ希望シ居リ判事選舉手續ノ解決及經濟問題ノ研究ニモ我方ニ對シ好意的態度ヲ示セルト好對照ヲ示セリ

三、西國內亂不干渉問題ニ付テモ總會ハ絕對ニ消極的態度ヲ堅持シ同國外相自ラ出馬シ議場内外ニ於テ躍起ノ策動ヲ試ミタルニ拘ラス本件ハ關係諸國間ノ倫敦會議ニ一任セラレ總會ノ議題トナラス同代表提出ノ宣傳文書モ事務局ニ依リ配布方ヲ拒絕セラレ當地ニ於テハ全然默殺セラレタルカ「リトヴィノフ」ハ西國政府ニ同情ヲ表シ伊、獨、葡諸政府ノ叛軍援助ニ對シ不滿ヲ洩ラシタルカ右ノ大勢ニ鑑ミ總會ニテハ深入リヲ避ケ結局右ノ不滿ヲ倫敦ニテ爆發セシメタル始末ナリ

四⁽³⁾、軍縮會議復活ニ關スル總會ノ決議ハ結局窮餘ノ彌縫策ニ過キス實際ニモ新「ロカルノ」會議ノ結末迄ハ會合スル

モ徒勞ナリトノ意見多シ尙第三委員會ニ於テ「リトヴィノフ」ハ本件コソ絶對的ニ汎世界性ヲ必要トスト説キ後述聯盟改組問題ニ關スル陳述ト一見矛盾セル如キ例ノ持論ヲ繰返シ日獨等ノ參加ナクハ蘇聯ハ責任ヲ負ハストノ趣旨ヲ強調セリ

三、世界經濟機構改革ノ準備(往電第二二六號参照)ハ金「ブロック」崩壞ヲ契機トシテ急遽提案審議セラレタルカ英佛等ノ主要關係國カ頗ル用心深キ態度ヲ執リ且非聯盟國ノ協力ヲ重要視セル點ハ注意ニ値ス米國政府ハ昨年ノ如キ獎勵的文句ノ送付ハ之ヲ差控ヘタルモ總領事ヲ通シ裏面的支持ヲ與ヘタル模様アリ聯盟側ハ「ルーズベルト」大統領再選ノ場合ニハ米政府ノ協力ニ一層ノ期待ヲ懸ケ得ルモノト觀測シ居リ又經濟部長等ハ米國政府ノ積極的協力ヲ希望シ居レリ

六⁽⁴⁾聯盟改組問題ハ總會一般討論ノ際重要議題トナリ多數代表ノ可ナリ率直ナル陳述ヲ見タルカ之亦新「ロカルノ」會合以前ニ具體化不可能ナル爲既報ノ通り過渡的解決ニ到達シ二十八國委員會ハ差當リ十二月七日開催ノコトニ内定シ居レリ「リトヴィノフ」ハ一般討論ノ外特別委員

會ニ於ケル本件審議ニ當リ智利、洪牙利兩代表ノ非聯盟國招請論ニ反對シ「對伊制裁ノ失敗ハ聯盟カ普遍性ヲ缺キシ爲ニアラス聯盟内ニ不忠實ナル聯盟國アリシ爲ナリ此ノ上現在ノ非聯盟國ヲモ加ヘンカ聯盟内ニ規約ヲ嚴守スル國ト然ラサル國トノ對立ヲ生シ毫モ聯盟ヲ強化シ得ス」ト論シ又「新ニ聯盟ヲ作ルナレハ兎ニ角トシ現在ノ規約ヲ改正スルナレハ聯盟員トシテノ責任モ義務モ負ハサル諸國ノ干與ヲ許シ得ス彼等自ラ協力ヲ希望セハ夫レハ即チ加盟ヲ欲スルニ外ナラス」ト述ヘタル程ニテ蘇聯カ日、獨、伊等ヲ成ルヘク聯盟ヨリ離間シ置キ就中日、獨兩國ニ對シ民主主義諸國ノ聯盟「ブロック」ヲ強化シ之ヲ自己ニ有利ニ操縱セントスルノ底意アルヲ想察セシムルモノアリタリ

七、以上ノ外相當目立チタル現象ハ中南米諸國ノ多數カ從來以上ニ聯繫ヲ密ニシ總會議長ニ亞爾然丁外相ヲ推シ判事選舉ニ伯刺西爾ヲ優遇(同國聯盟復歸準備ノ爲ト言ハル)スル等ニ付可ナリノ結束振ヲ示セルコトナリ

在歐米各大使へ暗送セリ

26

昭和11年11月10日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

連盟經濟部長より原料品問題に関する調査委員會設置に際し同委員會への我が方参加意向照会について

ジュネーブ 11月10日後発
本 省 11月11日前着

第二三三號

伊藤公使ヨリ

十日聯盟經濟部長ト會談ノ際同部長ヨリ本年度聯盟總會ノ決議ノ結果原料品問題ニ關スル調査委員會ヲ設置スルコトニ決定シ右委員會ニハ特ニ非聯盟國ヲ招請スヘキ旨記載セラレ居ル處日本ハ本問題ニ興味ヲ有セラルヘク且技術問題ニ付現在モ協力ヲ續ケ居ラルルニ付右委員會ニハ參加セララルコトト思考シ居ルモ貴見如何ト問ヒタルニ付本問題ニ關シテハ關係各方面ト協議ノ上回答スヘシト答ヘ置キタリ日本トシテハ本問題ニハ頗ル重要ナル關心ヲ持ツモノナレトモ最近ノ獨伊ノ對聯盟政策カ特別ナルコトニ顧ミ豫メ獨伊ノ態度モ一應研究ノ要アルヘク又米國ノ意嚮モ重要ナル

ニ鑑ミ是等諸點御取調ノ上御詮議ノ結果成ルヘク速ニ御回電アリ度シ

27

昭和11年11月11日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛

常設國際司法裁判所經費負担問題について

昭和十一年十一月十一日

(12月1日接受)

在壽府

國際會議帝國事務局長代理兼

總領事

横山 正幸(印)

外務大臣 有田 八郎殿

國際司法裁判所經費負擔問題ニ關スル件

聯盟脫退後ニ於ケル我方ト聯盟トノ部分的協力ニ關スル各種ノ懸案ハ漸次解決ヲ遂ケ我方ノ公正ナル態度ニ付テハ聯盟關係各方面ニ於テ益々了解ヲ深メ大ニ之ヲ多トシツツアル様見受ケラレ今次總會ニテ問題トナリタル國際司法裁判所判事選舉ニ非聯盟諸國參加ノ件ニ付テモ日本ノ關スル限リハ最初ヨリ理事會參加ヲ當然ト認ムル向多カリシ程ニテ

唯今回ハ「ブラジル」等トノ關係及期日切迫ノ關係ニテ御承知ノ通り過渡的ノ解決ニ終リタルカ兎ニ角一應我方ニ對シ出來得ル限り満足ヲ與ヘント努メタル事實ハ之ヲ認識セサルヲ得サル處本官歸朝中拜承セルトコロニ依レハ同裁判所分擔金問題ニ付テハ法律上乃至政治上ヨリ我方出捐ノ基礎ニシテ判然タルモノアル場合ニハ大藏當局トノ交渉ハ必スシモ困難ナラストノ御意嚮ナリシ様記臆セル故此際重ネテ此等ノ諸點ニ付研究ヲ試ミタルニ豫ネテ客年八月二十三日附拙信機密本公第五八一號等ヲ以テ稟申ノ趣旨ヲ一層強ク繰返シ得ヘシトノ確信ヲ得タルニ付左ニ少シク其ノ事情ヲ述ヘ何分ノ御再考ヲ煩ハスコトトセリ就テハ幸ヒ堀田局長モ歸朝中ノコトナレハ同局長トモ御協議ノ上本件ニ關シ重ネテ篤ト御詮議願ヒ度シ

非聯盟國ノ裁判所費用負擔ニ關スル條文其ノ他ノ參考資料ハ之ヲ別紙附屬書中ニ網羅シタル通ナルカ此等ヲ通觀シテ識ルコトヲ得ル事實ハ(一)非聯盟國ノ分擔金支拂義務ニ關シテハ必スシモ法律上明文ノ根據ナク問題ハ寧ろ政治上及德義上ノ考量ニ基クモノナルコト竝ニ(二)裁判所カ聯盟財政管理規則上ノ所謂自治的機關 Autonomous Organisationニ

トノ二點ナリシ處其ノ内(イ)ノ點ハ此際問題ト爲スヘキモノニ非ルモ(ロ)ノ裁判所費用負擔ニ付テハ比較的容易ニ御決定相成得ヘク其ノ結果將來ノ我方判事候補者ノ選舉運動竝ニ理事會ニ於ケル判事選舉參加ニ關シ永久的地位獲得上便宜多カルヘシト存セラル而シテ若シ故安達判事後任問題及判事選舉參加問題等ニ關シ我方ノ希望カ容レラレス同裁判所關係ニ於ケル我立場カ聯盟脫退ノ結果形式上及實質上何等カノ變更ヲ見タリシナラハ我方ニ於テモ分擔金ノ支拂ニ關シテ從來ノ態度ヲ變更スヘシトノ問題ヲ生シ得ヘキモ右諸問題カ我方希望通り解決後ノ今日ニ於テハ單ニ非聯盟國ニナリタリトノ理由ノミニ依リテ分擔金支出ヲ躊躇スルハ德義上ヨリモ面白カラス尙稍々細目ノ議論トナル虞アルモ裁判官ノ諸給與年額ハ一人當リ合計六萬「フロリン」(從來ノ爲替相場ニテ瑞西法ニ換算スルハ約十二萬五千金法)(内譯本俸四萬五千「フロリン」旅費五千「フロリン」恩給基金積立額一萬「フロリン」)ニシテ最近迄我方カ裁判所ニ支拂ヒ來リタル年額ハ約十五萬金法ナルハ御承知ノ通りナル處前記諸問題解決ノ結果本邦人裁判官ノ地位ハ當分確保セラルルニ至リ我方カ從來通り大体十五萬金法ヲ支出スルモ

屬シ其ノ會計カ聯盟ノ一般會計ト獨立シ居ルコトノ二點ナリ

茲ニ於テ我方トシテ右費用ヲ分擔釀出スベキモノナリヤ否ヤハ條約解釋論又ハ法律論ヲ離レ政治上及德義上ノ見地ヨリ之ヲ決スヘキ筋合ナル處先ツ之ヲ政治的見地ヨリ見ルニ帝國政府ハ聯盟脫退後ト雖モ非政治的事業ニ付テハ國際平和機關トノ協力ヲ吝マストセラレ獨逸政府カ聯盟脫退ト同時ニ海牙裁判所トモ絶縁セル如キ遣口トハ全ク異レル態度ヲ執ラレ從テ曩ニハ故安達判事ノ後任トシテ長岡博士ヲ推舉セラレ之カ選任ニ關シテハ各在外公館ヲ通シ熱心ナル運動ヲ試ミラレ又今次總會ニ際シ非聯盟國ノ選舉參加問題起ルヤ夙ニ我方ノ理事會ニ於ケル選舉參加ヲ主張セラレ假令暫定的ナカラモ右主張ノ貫徹ヲ認メ右選舉參加ヲ實行セラレタル次第ト認メラルル處斯ル公正ナル態度ハ今後ト雖モ當分變更ナキ儀ト存セラルルヲ以テ將來ニ於テモ同様ノ場合ニハ同様ノ處理ヲ要スト思考セララル然ルニ右二回ノ經驗ニ徴スルニ我主張ノ貫徹ニ付最モ障礙トナルノ虞アリタルハ(イ)我方カ未タ選擇條項ヲ受諾シ居ラサルコト竝ニ(ロ)裁判所費用ノ負擔ニ關シ未タ何等ノ意思表示ヲ爲シ居ラサルコ

右金額ト略々同範圍迄ハ間接ナカラ本邦側ノ所得トナルコトモ明ナルヲ以テ之ニ相應セル程度ノ分擔金ヲ支出スルハ寧ろ當然トモ思ハル而シテ斯ル德義上ノ考量ニ基ク出捐ハ實際上法律上ノ義務ニ基ク支拂ニ比シ政治的効果ノ大ナル現在ノ國際關係上顯著ナル事實ナルヲ以テ右ノ德義上ノ理由モ亦決シテ蔑視セラルヘキニアラス

最後ニ裁判所ハ聯盟内ニ於テモ一種獨立ノ機關ヲ構成シ前述ノ如ク其ノ會計モ聯盟一般會計ニ對シ獨立シ居ル次第ナルヲ以テ我方トシテ之ヲ聯盟ノ費用分擔ノ一般の問題ト切離シテ全然別箇ノ見地ヨリ單獨ニ取扱ヒ得ヘキ點ハ注意ニ値スヘク分擔金額ノ決定ニ付テハ上述ノ點ニ鑑ミ從來ノ分擔率百分ノ六、四ヲ支出スルコト最モ適當ト存セラル別紙參考資料ヲモ御査閱ノ上右ニ關シ何分ノ儀御同示仰キ度此段稟請ス

28

昭和11年11月12日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

連盟經濟部においては我が方の協力継続を相
当重要視しているとの觀察について

ジュネーブ 11月12日後発
本 省 11月13日前着

第二三四號

往電第二二三號會談ノ際伊藤公使ハ尙經濟部長ヨリ來年一月ノ理事會ニ於テ經濟委員會三年ノ任期滿了ノ新構成ヲ決定ノ筈ナルカ日本側ノ協力ヲ持續スル爲引續キ貴官ノ出席ヲ求め得レハ好都合ナルカ貴見如何ト問ヘルニ對シ「自分個人トシテハ差支ナキモ本邦側ヨリ強ヒテ参加ヲ求ムル氣持ナク又貴方ニモ種々ノ事情モアルヘケレハ都合好キ様セラレ度シ唯本邦ノ参加ナクハ聯盟側デモ困ルコトアルヘキハ御承知ノ通ナラン」ト答ヘ置ケル由ナリ
本官極祕ノ聞込ニ依ルモ經濟部ニ於テハ實ハ本邦ノ協力繼(續)ヲ相當重要視シ居リ出來得ル限り右委員會ニ於ケル同公使ノ地位ヲ其ノ儘存續セシメ度キ意嚮ヲ有スト認メラルル處他面同委員會ノ任務ニ付我方ニ於テモ多大ノ關心ヲ有スル次第ナルニ付此ノ際先ツ同公使ノ再任ニ御同意相成度ク且今後萬一同委員ニ更送ヲ要スル如キ場合ニハ改メテ交渉ノコトト致度シ
就テハ右ニ關シ何分ノ御意嚮至急御回示ヲ請フ

トセハ其ノ理由ニ關スル貴見御内報ヲ得度シト申越セリ情報ハ事務局内部ノ參考ニ過キサコトハ附言シアリ右ハ本使カ經濟委員會ニ屬セル關係上依頼越セル次第ナルカ返事ノ都合モアルニ付右可能性ニ關シ御訓電相成度シ
尙事務局側カ右ノ如ク研究範圍ヲ限定シ居ルノミナラス本委員會ノ由來及之ニ對スル各國ノ態度等本使ニハ不明ニシテ且壽府ヨリ電報セシ通り慎重ナル考慮ヲ要スル點アルモ我方トシテハ原料問題ノ全般ニ亘リ調査相成リ我方ノ方針豫メ決定有之ルコト有益ナルヘシト存セラル
英、佛、獨、伊、壽府ヘ暗送セリ

30 昭和11年12月2日 在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代理兼總領事より
有田外務大臣宛(電報)

連盟經濟部長より原料問題專門委員會の委員
選任に関する我が方向照会について

付記 通商局作成、「昭和十一年度執務報告」より抜粋

「原料品取得問題ト我國ノ立場」

波蘭ヘ暗送セリ

29 昭和11年11月14日 在ポーランド伊藤(述史)公使より
有田外務大臣宛(電報)

連盟經濟部長よりの原料品購入問題に関する
我が方情報提供要請について

ワルジャワ 11月14日前発
本 省 11月15日前着

第七七號

壽府ヨリ發電セル原料問題研究委員會ニ關シ
聯盟經濟部長ヨリ私信ヲ以テ該委員會ハ一月ノ理事會ニ於テ任命セラルル筈ノ處事務局ニ於テハ其ノ準備トシテ原料品購入(アクセ、コンメルシヤル)ニ關スル各國間ノ平等ナル問題ノ意義範圍等各般ノ研究ヲ爲シ居ル處日本ハ大ナル原料輸入國ナルニ鑑ミ情報ノ供給ヲ仰キ度ク特ニ重要視シ居ル點ハ原料品ノ自由流通ニ對スル障礙ニシテ即チ日本ハ原料買入ニ關シ差別待遇ヲ受ケタルコトアリヤ又ハ科學ノ點ニ於テ原料生産國又ハ原料所有國ノ工業ニ對シ日本ノ工業カ不利益ナル地位ニ置カレタル如キコトアルヤ若シ然リ

ジュネーブ 12月2日後発
本 省 12月3日前着

第二四六號

往電第二三四號ニ關シ

經濟部長ヨリ「原料問題專門委員會ノ構成モ一月ノ理事會ニテ決定ノ筈ニテ事務局トシテハ經濟委員會ヨリ七名財政委員會ヨリ三名其ノ他適任者數名ヲ推薦ノ豫定ナル處本問題ニ關係深キ日本ニ付日本政府ノ特ニ推薦セラルル専門家アラハ其ノ選任ヲ斡旋スヘキモ若シ年末迄ニ何等御申出ナキ場合ニハ經濟委員會ヨリノ候補者中ニ伊藤公使ヲ加ヘ置キ日本ノ協力ヲ確保シ度キ考ナリ」ト内話アリタリ
就テハ冒頭往電ノ件ト併セ篤ト御詮議相成度ク何分ノ儀御回電アリタシ

英、佛、伊、波蘭ヘ暗送セリ

(付記)

原料品取得問題ト我國ノ立場

(昭和十一年十二月五日)

晩近我國工業ノ躍進ニ伴ヒ原料資源ノ缺乏ヲ痛感スルコト

他ノ主要工業國ニ比シ著シキモノアリ即チ我國ニ於テ輸出餘剰ヲ有スル原料トシテハ僅ニ生糸、硫黃ヲ數フルノミニシテ略々自給シ得ルモノニハ銅、石炭、石墨アリ部分的ニ外國ノ供給ヲ仰グノミニテ自給率良好ナルモノハ鐵、「マンガソ」、「タングステン」、「クローム」、「モリブデン」等ノ金屬原料及木材等ナリ金屬原料中鉛、亞鉛、錫、「ボーキサイド」、「ニッケル」、「アンチモニー」、「マグネサイト」、水銀等ハ石油、燐礦、雲母、白金等ト共ニ自給率不良ナルモノニ屬シ就中我國纖維工業ノ原料タル棉花、羊毛、其他ノ植物纖維及護謄、製油原料品ハ殆ド輸入ニ仰ガザルヲ得ザル狀態ニ在リ之ヲ米、英、蘇、佛等ノ工業國ノ原料資源保有狀況ニ比較スレバ我國ノ狀況ハ頗ル劣惡ニシテ大體ニ於テ獨、伊、白、智、波等ノ諸國ト同條件ニ在リト云フヘシ

敍上ノ如ク我國工業ノ需要スル原料品ノ輸入依存率著ク大ナル處今後ノ國際競爭場裡ニ於テハ國家の使命ヲ自主的ニ遂行シ得ルガ爲ニハ工業原料資源ノ獲得上好條件ヲ必要トスルコト勿論ニシテ斯ル條件ニ惠マレ居ラザル國ガ原料資源ニ對スル熾烈ナル要望ヲ抱クハ當然ニシテ國際の二領土

ニシテ我國ハ軍需品トシテ例ヘバ米國ヨリ屑鐵ヲ印度、蘇聯邦ヨリ銑鐵ヲ、米國、蘭印、英領植民地ヨリ石油ヲ、阿弗利加ヨリ鹽ヲ輸入シ其他棉花、羊毛、護謄、「パルプ」等ノ重要原料ヲ何レモ遠隔ノ地ニ仰ギ居レル現状ナルガ一朝有事ノ際ニ引續キ之等資源ノ供給ヲ受クルコト頗ル困難ナルベキハ豫見ニ難カラズ

我國トシテハ一方ニ於テ今後(イ)原料輸入先分散方針、(ロ)英國「ブロック」政策強化ニ對應シテ日本ヲ中心トスル日本「ブロック」結成ヲ目標トスル原料輸入ノ多角化方針、(ハ)我國ニトリテ輸出超過國ヨリノ原料輸入増加方針及(ニ)日本國內ノ資源獲得、利用度ヲ増加セシムルノ方針ヲ樹立スルヲ要スルト共ニ他面通商自由ガ世界平和ノ基本的條件タルコトヲ高調シ我國工業ノ原料需要ガ國際通商ノ公道ヲ通ジテ支障ナク充タサレ得ル様措置ヲ講ズルヲ得策トスルノ立場ニ在ル處第十六回國際聯盟總會ニ於ケル「ホア」英代表ノ演説及第十七回國際聯盟總會ニ於ケル「モリソン」英代表ノ演説竝ニ其提案ニ基ク昭和十一年十月十一日ノ聯盟總會ニ於ケル原料品取得問題ニ關スル決議ニ對シテハ我國トシテ本問題ニ付聯盟ニ協力シ世界通商ノ公道ヲ通ジテノ原

及原料資源分布ノ不均衡ヲ是正スルコトガ世界平和確保ノ基本條件ナリトナス「ハウス」大佐ノ植民地再分割論ノ如キモ此ノ意味ニ於テ正論ト云ハザルヲ得ズ

我國ニトリ最重要ナルハ工業原料確保及製品販路ノ問題ナルガ之等ノ問題ハ國際經濟、通商問題ノ動向及國防上ノ要求ニ關聯シテ考察セラルベシ而シテ現今ニ於テ世界ノ主要國ガ一般ニ生産過剰ノ爲自國産業ノ擁護ニ全力ヲ注ギ居リ輸出市場確保ノ爲ニハ單ニ良質廉價ニ依ル競爭力ヲ強化スルノミナラス輸出先國ヨリノ輸入ヲ増大セシムルノ必要アル場合頗ル多ク(南米棉花ノ本邦輸入ノ如シ)斯ル見地ヨリシテ我國トシテハ單ナル個々ノ採算ニ拘束セラレズ原料輸入先ノ分散化ヲ敢行スルコト肝要ナリ現ニ我國毛織工業ガ濠洲羊毛ニ依存シ紡績工業ノ原料ガ殆ド米棉、印棉ニ限ラレ居ルガ如キ事態ハ今後ノ通商戰ニ於テ我國ヲ頗ル不利ナル立場ニ陥ルコトトナルニ鑑ミ原料輸入ノ多角化、(例ヘバ南阿及南米羊毛ノ輸入、支那棉ノ輸入)ヲ計ルコト喫緊事ナリ

原料確保ノ國防上ノ要求ハ軍需品タルト一般必需品タルトヲ問ハズ現在ノ國際間ノ政治不安ノ續ク限り存續スルモノ

料品獲得ヲ保障スル如キ協定成立ニ導クニ努ムルコト適切ナリト思考ス

尤モ英國ガ世界各國ノ原料獲得ニ際シテノ障礙除去、原料購入ノ無差別待遇ヲ提唱スル眞意那邊ニ在リヤヲ考察スルニ原料資源配分ノ自由ノミヲ高調シテ各國ノ眼ヲ眩惑シ世界經濟ノ他ノ一面タル各國製造品ノ販路ノ問題ヲ不問ニ附シ去ラントスルニアラズヤノ嫌アリ蓋シ現時ノ世界經濟ニ於ケル顯著ナル事象ハ各國何レモ自國産業ノ保護ニ主力ヲ傾注シ其製品ノ販路ニ付特定經濟範域ヲ區切リテ獨占的ニ確保セントスル所謂經濟「ブロック」形成ヘノ努力ナリ然ルニ經濟「ブロック」形成ノ爲ノ爭鬭ノ中心問題ハ戰時經濟の觀點ニ立ツ場合ト平時經濟の觀點ニ立ツ場合トニ從ヒ同ジカラザルモノアリ即チ前者ニ在リテハ自國ノ經濟勢力範圍內ニ資源ヲ確保スルコトヲ以テ第一義トナスニ反シ後者ニ在リテハ自國製造工業ニ必須ノ原料ヲ自由ニ獲得スルノ問題ハ勿論重要ナルモ中心ニ立ツハ寧ろ自國製品ノ販路ノ問題ナリ而シテ現今ニ於ケル經濟「ブロック」化ノ世界の傾向ヲ助長シツツアル經濟の根本理由ハ實ニ販路ノ爭奪ニ在リト云フベク今日ノ如ク世界の二生産力ノ過剰ヲ見資

源的物質ノ過剰生産ノ時代ニ於テハ生産ガ世界ノ需要ニ比シテ不足シ居ル場合ニ生ズル如キ資源獨占ノ爲ノ争鬭ヲ見ル以前ニ各國共購買力アル地域ヲ自國ノ勢力範圍ト爲サントスル販路争奪戰ヲ展開スルモノナリ即チ現時ノ平時經濟的觀點ヨリスレバ各國ハ原料購買ノ自由ニ先ンジ販路獲得ノ爲ノ鬭争ニ力ヲ注ギツツアリト云フベシ國際聯盟ノ制裁トシテノ經濟封鎖ノ如キモ不賣ノ手段ニ依ルハ至難ニシテ不買ノ方法ニ依ルヲ容易トスルノ事實ハ這般ノ消息ヲ語ルモノト云フベシ

前顯「ハウス」大佐ノ所論ハ領土即チ販路ト資源ヲ同等ニ分配セヨト主張スルモノナルガ之ニ反シ英國今次ノ提唱ハ製品販路ニ關スル各國無差別待遇ノ問題ニハ全然觸レズ原料ノミハ何レニ對シテモ平等ニ賣ラントノ趣旨ト見ルベク

工業原料資源ニ貧弱ナル我國トシテハ通商ノ公道ヲ通ジテ原料資源ノ獲得自由ノ方途ヲ講ゼントスルノ傾向ハ大ニ之ヲ助長スルノ態度ヲ執ルコト得策ナル次第ハ前述ノ如クナルカ聯盟側今次ノ提案ニ應ズル場合ハ原料資源ノ獲得自由ノ原則ト同時ニ製品販路自由ノ主義ヲ高調シ兩者ヲ切離スコトナク取扱フベキモノナルコトヲ主張シ以テ物資ノ國際的自由流通ノ制度ノ再建ニ導クコト肝要ナリト思考セラル

編注 通商局作成「昭和十一年度執務報告」には、通商局が

本件文書を原料問題關係資料・調書と共に外務大臣に提出した旨が記されている。

三 欧州政況

1 一般問題

31 昭和11年1月18日

在トルコ德川(家正)大使より
広田外務大臣宛

トルコの海峡防備問題の現状ならびに各国の

反応および我が方への影響につき報告

機密第一〇號

(2月12日接受)

昭和十一年一月十八日

在土

特命全權大使 德川 家正(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

土國海峡防備問題ニ關スル件

本件ニ關シテハ電報ヲ以テ申進シ置キタル次第アリタルカ

本問題經緯概略並卑見左ノ通申進ス

本信寫送付先 英、佛、蘇

一、海峡防備問題ノ近況概要

海峡防備問題ハ客年三月獨逸ノ再軍備宣言ニ連レテ問題化シ翌四月十七日國際聯盟理事會ニ於テ土國外相「アラス」カ獨逸再軍備問題論議中海峽武裝ニ言及シ「勞山條約ノ軍事條項中ニハ土國ノ防備ニ對スル制限ヲ包含シ居ル處「スレス」地方ニ關スルモノハ接壤三國ニ對シ同様ノ相互的義務ヲ課スルモノナルニ付今此所ニハ論セサルカ海峽ニ關スルモノハ非武裝地帯ニ關スルノミナラス防備手段ノ制限ニモ關スルモノニシテ差別的性質ノモノナリ、此ノ制限ハ土耳其ニ不平等ノ待遇ヲ與フルモノニシテ其後事態ニ著シキ變化アリタルニモ拘ハラス依然トシテ存在ス若シ今後現行條約ニテ規定セラル、狀況ニ對シ變更力加ヘラル、際ニハ土國ハ右變更ノ條件トシテ海峽ノ軍事的制度ニ對スル變更ヲ主張セサルヲ得サルコトヲ明ラカニス、三國提出決議案ノ審議ニ際シ斯ル宣言ヲ爲セルハ唯土國ノ見解ヲ照會セルノミニシテ決シテ本件ノ實質ニ付問題ヲ提起スル次第ニ